琉球大学学術リポジトリ

<資料紹介> 儀衛正日記

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学法文学部
	公開日: 2007-10-30
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 池宮, 正治, Ikemiya, Masaharu
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2288

資料紹介

儀衛正日記

池宮正治

江戸上りという、徳川将軍襲職の際に慶賀使、琉球国王の即位の際には謝恩使を幕府に派遣する制度は、薩摩入り後の寛永十一（一六三四）年慶賀使（正使佐敷王子）、謝恩使（正使金武王子）を同時に派遣したことに始まる。次の正保元（一六四四）年の江戸上りも、慶賀使謝恩使を同時に派遣しており、後の規模から言えばいまだ変則的なものであった。これが次第に整備され、江戸上り一行はおよそ一〇〇人、慶賀使と謝恩使とは同時に派遣される場合でも、分けられ、十月か十一月に江戸に入り、年内に江戸を離れ、滞在中の三度の登城と儀礼、島津公の昇位、将軍から島津公への三千俵の下賜、王府から将軍への献上品と将軍からの贈答品、江戸城での琉球側の唐踊りと唐楽の演奏等々、宝永七（一七一〇）年ごろまでに確立する。そして近世にあっては十八回（慶賀使十回、謝恩使者十一回）、少なくとも千六〇〇人以上の琉球人が参加したと思われる。

ところが江戸上りを記録した資料は、参加者の家譜資料を除いては、見聞録、日記といった個人資料は言うに及ばず、公的な王府関係の資料もまったく伝わっていない。今回紹介する「儀衛正日記」は、天保三（一八三二）年度の江戸上りの際の儀衛正日記で、この種の資料としては現存する唯一のものである。その意味で江戸上り資料の第一級資料であることは言をまたない。なおこの時の江戸上りには「正使方日記」なるものもあったことが文中でわかる。だとすれば副使や楽正にもこうした日記があったことが予想される。はたして尚侯爵家の『御蔵本目録』

には天保十三年の江戸上り時の副使座喜味親方の『副使座喜味親方日記』がある。なお本目録には本『儀衛正日記』が所蔵されていたことも確認できる。

江戸上りの使者の一行は、正使・副使・賛議官の三役首脳のほか、江戸城での唐楽演奏やその後の薩摩屋敷その他で行われる唐楽琉楽演奏といった座楽の責任者である楽正（座楽主取）、江戸上りの往還、行列に先備して路次楽を演奏し、儀仗を整え、行列全体に目配りをする主任が儀衛正である。また国王から将軍への書簡を管理するのが掌翰史、献上馬の管理者が圉師（慶賀使派遣のときのみ参加）である。これらの人物はもっとも重い江戸城での儀式のときには唐衣裳を着用する。

楽正の下には楽師が数人、江戸上りの花である楽童子が六人、これらの人もここに属する。儀衛正の下には、銅角、喇叭、哨吶、銅鑼、鼓等を演奏しながら、「中山王府」「謝恩正使」といった牌を掲げ持ち、羽の生えた虎の絵が描かれた虎籏、鎚、龍刀、涼傘といった儀式用の道具を配して行進する路次楽人がいる。天保三年の江戸上りの時には発表された路次楽人は二一人である。本書に行列に「棒突」と出ているのは、沖縄での琉装の場合には、袖を後ろに結んで大きな竹を割って内側を朱塗りにした鞭（琉球語ワイブチ＝割り鞭）を持った警護人のことである。これもこの二一人の路次楽人に含まれる。路次楽人は、十七世紀半ば以降は、江戸上りにあっては帽子を被り赤い清服を着用している。本書に「大城にや」「赤嶺にや」「高良にや」などとあるように、百姓出身の首里在住者が担当し、普段は国王の行幸の際奉仕するのを例としている。

また本書に「あいを踏」と再三出ているが、この「あい」は「鞋」の読みで、旅行用の浅い靴のことである。琉球側の一行は全員、琉装唐衣裳にかかわらずずうっとこの靴を履いており、草履などは履いていない。

なお江戸上りでは始終路次楽を奏し、正使は唐衣裳に身を包んで轎に乗っていると思われがちだが、本書を見れ

ば分かるように、普段殆どの行程は琉装であって、主だった者や楽童子が駕籠や馬を利用する他は、徒歩であった。途次の沿道の城下や市街地に差しかかると、正使は轎を組み立てて乗り、琉装に盛装し、路次楽人は例の清服に着替える。相手の上下敬意の度合いによって、馬・駕籠を徴発したり、冠（ハチマチ）を被る被らない、服の着用にも厚薄の差を付けている。

この時の江戸上りは大変な熱狂振りで、松浦静山の『保辰琉聘記』を始め舞楽図など実に多くの資料が残されている。しかしその幕開けは正使豊見城王子朝春の死亡というショッキングな事件から始まっている。謝恩正使は無事薩摩に上陸してまもなくの八月二七日に死去、急遽向寛・普天間親雲上朝典（後の三司官兼城親方）を豊見城王子に仕立てて上江している。またこの「儀衛正日記」の当事者である蔡修・儀間親雲上（一七七七～一八三二）も、不幸にも往路京都伏見宿で十月二五日死去している。同日賛議官の従者葛原親雲上も死亡していて、両者ともカゼであった。ようやく寒くなると感冒が流行しだす。そのはしりであったと思われる。江戸では琉使一行が来てからカゼが流行るので「琉球かぜ」と呼んでいたほどである。十一月三日には梁文弼・富山親雲上（一七九四～一八三二）が尾張の稲葉宿で死亡している。

儀衛正は久米村から任命される例である。楽師の一人も久米村から任命される例で、いずれもこの面の能力以外に「唐字」に優れている人が選ばれた。儀間親雲上と富山親雲上がまさにそれであったわけである。しかるに儀間親雲上の後任には首里士族の譜久山親雲上が任命されている。儀間と富山の両人は京都伏見の大黒寺に葬られた。

ところが「儀衛正日記」はこれらの事実を漏らすことなく淡々と記録していて、この記録が儀衛正儀間親雲上その人が自ら筆を取ったものではなく、部下に書役が存在していたことを予想させるものになっている（二月十九日の条に「儀衛正役人与座筑登之」と出ている）。日記は、十二月十三日、五五日間の江戸滞在を切り上げて帰路に

つき、正月を京都伏見で迎え、三月五日薩摩琉球館に入っている。間もなく船に乗り帰国の途に着き四月八日那覇港に入り、その足で首里城に登って国王に拝謁して将軍からの書簡を呈上復命し、同十三日の後処理の記事で終わっている。

最後に書誌上のことについて若干述べる。本資料は故島尻勝太郎氏所蔵の複写本から生前に複写させてもらった複写本を用いた。文字を読むに当たって不都合な点は少ないが、従って紙質法量は詳らかにしえない。墨付およそ一四九丁、一面八行。「東京帝国大学図書館之印」「史料編集所蔵本」の印影が見られる。末尾には「右／儀衛正日記　壱冊／東京市渋谷区南平台　侯爵尚　裕氏所蔵／昭和六年十月写了」とあって、尚家所蔵の「儀衛正日記」を書写したものであることがわかる。

なお本資料の翻字にあたっては、琉球新報社の援助を得て島村幸一氏が全体を翻字原稿化し、最後に池宮が最終的に校訂修筆した。

判読不能の箇所は□とし、誤字と思われる場合には右肩に括弧〔　〕で示した。また便宜のため句読点を施してある。

一九九四年十月七日記す。

天保三年

義衛正日記

道光拾弐年壬
天保三年　　辰九月朔日晴天

一　今日如江戸出立ニ付、例之通琉冠服綸子衣裳ニゐ足袋はき、夜七ツ半時本殿ゟ相揃、朝五ツ時三度之楽ニゐ行烈、帳之通路次楽ニゐ館内繰出、新橋罷通、肝付典膳殿表門之辺ゟ相備、

太守様御発駕被為　在、引続外繋門前より御供屋角二之丸前舛形千石馬場西田町通、水上ニゐ行烈楽止、いづれも冠迦中官以下楽童子台輪加籠、従者以下軽尻馬ニ乗、横井之様差越候事。

附

一　今朝、王子御始末々迄本蔵より料理賄有之先例候得共、此節者朝昼飯共自分拵ニゐ候也。

一　御列御家老御用人衆館内物見ゟ今朝御越被成、其外江戸行役々衆も被差越諸事差引候也。

行烈左記

中小姓 何某

棒突 足軽

小人 衣家 鞍

中小姓 何某

棒突 足軽

騎馬 儀衛正 供琉人

小人 傘

中小姓 何某

棒突 足軽

小人 雨具 鞍

中小姓 何某

棒突 足軽

小人　牌　小人　張籏　小人　銅角　小人　喇叭　小人　唄吶〔哨〕カ

銅羅　小人　両班　小人

小人　牌　小人　張籏　小人　銅角　小人　喇叭　小人　唄吶〔哨〕カ

小人　鞍　小人　鞍　　小人　虎籏　小人　　棒突　足軽

小人　鞍　小人　鞍　　小人　虎籏　小人　　棒突　足軽

騎馬　掌翰使　供琉人

小人
雨具
棒突
足輕
右同
何某
足輕
同
右同
何某

傘
小人
笠家
棒突
足輕
中小姓
何某
足輕
同
右同
何某
涼傘
乘物
正使
右同
何某

贊度使　小人　中小姓　何某　足輕　同　鎧　衣家　足輕　何某　中小姓

跟伴　用達

贊度使　傘　雨具　衣家　副使

跟伴　用達

贊度使　小人　右同　何某　足輕　同　龍刀　茶庫　足輕　何某　中小姓

小人　鎧衣家

小人　鎧　衣家

小人　傘

跟伴　讃議官

跟伴　楽正

跟伴　雨具　楽重子

小人　傘雨具

小人　傘　雨具

小人　衣家

小人　昭年
衣裳　雨具

小人　傘
山高帽子洋服ニ
る段仕候

一　正使御始いつれも横井御茶屋ニ七ツ時分御着、村入口より例之通路次楽行列、此所ニ㆑御使者衆役々為御見送被差越、御持参之提重弁当開き御離盃御取替昼休□相仕廻、旁相済御出立、伊集院入口より楽行列ニ㆑酉時分止宿いたし候事。

一　副使以下末々迄、夜飯よりは蔵方調ニ㆑賄有之候事。

九月二日　朝雨天九ツ時分より晴天

一　今日六ツ半時分、王子様御始いつれも伊集院御出立、楽行列村迦ニ㆑楽止、四ツ時分市来湊前より路次楽行列、同所御役屋ニ㆑昼飯相仕廻、夫より楽行列村迦ニ㆑楽止、向田町ニおひて行列被遊　御覧候段被仰渡置候付、向田町入口ゟ楽行列致させ、源内川舟渡ニ㆑暮六ツ時分大小路太原休兵衛宿ニ止宿いたし候事。

一　太守様向田御仮屋ニ御泊被遊候事。

一　今日王子始於向田参り掛け、伺御機嫌被申上候様申渡置候得共、大小路着之上、拙者に相付奉伺御機嫌候様、被仰付候。此旨琉球館聞役に可申渡候。

九月二日　　但馬

同三日　晴天

一　今日四ツ時分為伺御機嫌王子様御始役々向田御仮屋に参上御次第書之通御目見被仰付候事。

附衣裳之儀者さや羂子之間にゐ候事。

一　同日七ツ時分より王子様御始副使以下中官楽童子遊舟仕候様被仰渡、歌三味せん楽なといたし、暮時分罷帰り候事。

一　御重一組　一　御酒二樽　一　鮒弐十六

一　餅弐粒　一　玉子五甲　一　干魚四枚

右之品々舟遊ニ付儀衛正楽童子に拝領被仰付候。正使副使以下楽正にも被成下候也。

一　明日新田宮御参詣被成候間、王子御宿に御揃可被成候。以上。

附王子さや御衣裳副使以下中官迄羂子白糸経之間、楽童子紬衣裳、いつれも大帯着候也。

一　泰平寺に者差支有之、御名代を以参詣可致筈候。

九月三日　　讃議官

儀衛正

九月四日晴天

一 今日新田八幡宮致参詣御宝物之御腰物御制札等拝見、夫より太夫執事吉太殿所に立寄候処、御吸物三ツ御酒肴笠飯等出、段々御取持有之候也。

但御参銭三文ツヽ弐包持参いたし候也。

一 同日小舟ゟ皿山に差越出合之焼物類見物いたし、尤地頭北郷内記殿被申付置由にゐ、御吸物酒肴笠飯等出、末々迄ゟ同断御馳走有之、夜五ツ時分罷帰り候事。

但王子副使二者御不快ニ付、宮に使賛を以御代参、皿山にも御越無之候也。

九月五日晴天

一 琉球人并被召附候役々川下りニ付荷物積入方之儀、船頭より引合相請取候様申渡置候間、引合次第無遅滞可被引渡候。此旨申達候。以上。

九月五日　　旅役所

別紙之通御船奉行より問合有之候間、船頭に可被引渡候。以上。

九月五日

儀衛正

一 上白羽扇子四本　一　短香弐包

右楽師富山親雲上具志川親雲上城間親雲上内間親雲上池城親雲上私六人ニゐ、□引宿主に相進申候事。

一 只今諸荷物向々船頭方に引渡、久見崎本船積入いたす筈候間、銘々乗船御持越之品荷方船積入品、取分□船頭

方に可被引渡候。今日中皆同積入不□[相]渡候ゐ不叶事候間、精々取急ぎ、積入夫請取方ニ参候節、延引不相成様取計被置度、此段通達いたし置候。以上。

則ゟ追々荷下夫向々差越筈候。

九月五日　　旅蔵方

儀衛正

於他所琉球人湯入御免ニゐ陸卸之節方々に行廻候儀不相成候。心得違之もの有之候ゐハ御取締届兼之筋相見得、外見ゑ不宜候。大和役々申付候迄ニゐは、末々琉球人不頓着もの有之候間、讃議官其外頭立之面々ゟ聊取違之儀無之様、分ケゐ稠敷可申付候。右之通聞役に申渡、御目附横目にも可申渡候。

九月　　但馬

右之通有之候間、致通達候。以上。

九月四日　　宇地原親雲上

儀衛正

琉球人立方川下り日限之儀者取究置候通故、面々荷物積入方者前以船頭引合次第可相渡事候処、段々積入致遅々候哉ニ相聞得、甚以不可然事候条、荷方船頭入之品ニは早々船頭方に可相渡候。乍此上及遅滞、明日限難積入向候儀者、自分計ニ申付候条、此旨被召付候。面々に申渡御船奉行にも可申渡事。

九月五日　　嶋津権五郎

船中於港琉球人湯入之砌家借受、人払ニゐ□[其]家致幕張、御徒目付為締差越候儀、都ゐ先例之通申付候。尤湯入之儀者、時々御用人より可致御差図候。此旨聞役に申渡可承向にも可申渡候。

九月　　但馬
嶋津権五郎

琉球人旅宿等に被究置候人之外、猥出入致間敷候。尤琉球人之儀も無用之所に徘徊為致間敷候。不差越候ゐ難叶儀も候ハヽ、時々可得差図候。此旨聞役に申渡候間、時々向々にも可申渡候。

九月　　但馬

一別紙弐通之通被仰渡候間、致通達候。左候ゐ荷物儀者、船頭請取方ニ参候者品々船頭に可被引渡候。万一明日限積入方不相調品者、自分計ニゐ被仰渡候間、明日限無間違可被引渡候。此段致通達候。以上。

九月　　旅蔵方
儀衛正

本文品々相廻、聞役旅宿に無間違返納可有之候。万一相滞候向も有之候ハヽ及迷惑候間、此段分ケゐ申達候。以上。

本文之通昨日ゑ申達置候通候得共、尚又今朝承知之趣も有之候付、又々此段致通達候。尤承知星無之候間、承知之訳可被記候。此旨申達候。以上。

明朝琉球人　御行列拝見被仰付候付、明暁七ツ半時ニ者惣ゐ琉球人出揃居候様可被取計候。若　御通行迄ニ不出揃候ゐ者、決ゐ宜ましく候間、此段御自分に内々申越候様被仰付候間、此段分ケゐ申達候。以上。

九月　　伊集院集衛
川上直之進

右之通只今致承知候間、御刻限無間違出揃居候様、猶又各ゟ申渡可被置候。此段致通達候。

九月五日　　川上直之進

琉球人宿々

写

嶋津筑後守殿御妹於貞殿御事、先月廿九日御死去之段申来、依之御供中并琉球人又者被召附候面々末々迄も、今日より日数三日人々心入を以可相慎旨、不洩様可申渡候。以上。

九月五日　　但馬

別紙之通被仰渡候間、此旨致通達候。以上。

九月五日　　嶋津権五郎

琉球人に被召付候面々宿々

九月六日　朝雨天四ツ半時より晴天

一今日川下りに付、王子副使琉冠服賛議官以下冠□[な]し、四ツ時分色衣着ニゐ紗綾羽子之□[間]正使御宿に相揃三度之楽ニゐ王子御乗物、副使以下役々歩行、路次楽行列させ、波戸場より川平太舟に御乗付被成候。向田渡口より船賦之通、いつれも御乗付被成候付、行列帳之通順々相下り所々ニゐ楽いたし、八ツ過時分、久見崎着船、各関船に乗付候事。

但王子副使御乗船に御着之御祝儀申上乗船、千歳丸に罷帰候也。

一表原琉人中間蔵役山田弥太右衛門殿、同重久金次郎、唐学掛鎌田亥之丞、□唐口通事加納平兵衛、手伝壱人、

小人七人、館内人足拾壱人、乗合之事。

九月七日　曇天

同八日　朝雨天八ツ時分ゟ晴

一　先達ゟ鹿児島より久見崎迄相仕廻□荷物并大小路より積入之荷物、荷方船ゟ被差廻候荷数、銘々覚書を以可被申出、大坂御留主居方ゟ送状相付差遣候間、早々可被申渡候。此段致通達候。以上。

九月八日　琉球館聞役

一番船　二番船　三番船　四番船

琉役々中　大和役々中

一　衣家壱荷　一　皮庫壱荷　一　帳箱弐ツ　一　竹皮籠弐ツ　一　小徳利壱ツ　一　後付壱ツ　一　長柄壱本

一　手笠弐ツ

右乗船ゟ積入候品々、如斯御座候。以上。

一　今日王子御始役々、御関船春日丸拝見被成、暮時分御帰り被成候事。

九月九日　雨天

一　今日館内ゟ便り有之候付、琉球并館内留主ゟ書状差遣候事。

同十日　雨天

一　今日乗合之旅蔵方ゟ酒肴被差出候付、いつれ茂乗付之祝ひ仕候事。

同十一日　雨天風寅卯之間

一　今日八ツ後ゟ風波荒立候付、御乗船并都ゐ之船久見崎表江寄付及騒動、則御書翰櫃正使御始いつれも便船ゟ久見崎江被致上陸、荷物等被卸陸宿いたし居候事。

同十二日　曇天

一　今日旅蔵方ゟ館内江飛脚被差立候付、琉球江之書状并館内留主江同断差遣候事。

同十三日　晴天

一　今日館内ゟ之書状相届候事。

一　上方道中先荷明荷差分有之事ニゐ、於大坂右荷分致吟味候ゐ者中三日之滞留ニゐ段々事多、至ゐ取込申積候間、船中ニゐ右之吟味取究大坂致着候ハヽ、聊無滞相片付、貫目改等申請。少茂差支無之様不致候ゐ不叶事候間、各乗合之役々末々迄荷物究両三日中ニ可被書出候。尤遠路荷数多有之候ゐ者、毎朝出立之妨可罷成候間、随分明荷相減候方可被致吟味候。壺類者行列外ニ持越候ゐ茂晴々敷道中見分不宜儀ニゐ先荷之方ニ可見合候得共、莵角明荷ニゐ不持越候ゐ不叶訳茂有之候ハヽ、取仕出方随分結構相見得候様可被取計候。且又行列備具之内損物等有之、修甫不致候ゐ不叶品茂有之候ハヽ是又蔵役方江可被申出候。此段茂前廉ニ致通達候間各乗合之人数

可被申合候。以上。

九月十日　　宇地原親雲上

儀衛正

覚

此通小人□川藤太夫ゟ相渡候事

一　台輪駕籠壱丁

一　長持壱丁

右荷方船ゟ積入如斯御座候。以上。

九月十三日　　儀間親雲上

旅蔵方

覚

一　竹皮籠弐拾八

右路次楽拾弐人貝摺師弐人〆拾四人分、荷方船ゟ積入如斯御座候。以上。

九月十三日　　儀間親雲上

旅蔵方

同十四日　晴天風丑寅之間

同十五日　晴天風寅卯之間

一　昨日迄ニ船修甫相済今日九ツ時分、いつれも船に乗付候事。

一　久見崎滞留中私貝摺師弐人螺（赤）頭壱人士供迄、三度完蔵方ゟ賄有之候事。

一　今日七ツ時分、館内より書状相届候事。

一　〔涼〕
　　涼傘壱差

　　右正使御乗船に

一　金鞍旗壱対

一　引鞍壱ツ

一　中山王府之牌板壱枚

　　右楽正御乗船に

一　引鞍壱ツ

一　中山王府之牌板壱枚

一　虎旗壱対

一　路次楽器櫃弐ツ

　　右私乗船に

右久見崎より大坂迄船餞用として賦之通乗付、尤泊々出入之砌計飾候事。

九月十六日　清天風寅卯之間

一　久見崎に中九日滞船ニゐ今日順風相成候付、但馬殿御乗船より出帆、相図之貝鳴候付、六ツ半時分一同出帆い

たし候処、追ゐ向風相成押船ニゐ、七ツ時分出水之内脇元泊に碇を卸候。早速正使御乗船副使御乗船に参上、御着之御祝儀申上候事。

附着船之祝儀として、旅蔵方ゟ酒肴被差出候付、いつれ相祝ひ候也。

九月十七日　晴天風亥之方

一今夜八ツ半時分いつれも貝鳴候付、一同脇元ゟ碇を起、六ツ時分より向風相成、押船ニゐ五ツ半時分牛深と申所に致着船候事。

一今般江戸立ニ付ゐ者、兼ゐ段々被仰渡置候付、聊不守之儀者無之筈候得共、是ゟ先他領之事ニゐ陸卸者勿論、他国人対談、又者不依何色致直買候段者、一切不相成事候間、猶以其旨を相守候様各乗組末々之者共迄、不洩様時々厳重ニ可被加下知候。以上。

九月十七日　宇地原親雲上

儀間親雲上

一今日九ツ時分貝鳴候付、一同牛深□出帆いたし候処、追ゐ向風相成、押船ニゐ通船難成、乗戻昼八ツ過時分天草之内黒嶋ゟ申所に致着船候事。

九月十八日　清天風子丑之間

一順風無之滞船之事。

一陸卸ニゐ入湯仕度聞役を以御用人衆に相伺、御免之上、楽正以下末々迄聞役其外大和役々同伴ニゐ牛深村に差

越、酉時分罷帰候事。

同十九日　晴天風子丑之間

一　日出時分相図之貝鳴候付、押船ニゐ黒嶋出帆、七ツ時分天草之内崎之津ゟ申所ゟ致着船候事。

同廿日　晴天風子丑之間

一　暁七ツ時分貝鳴候付、崎之津ゟ碇を起、八ツ時分ゟ向風相成押船ニゐ通船不罷成、長崎之様乗戻、入相時分長崎之内深堀□[ゟ]申所ゟ碇を入候事。

明日者長崎近方通船之筈候間、船飾等之儀先達ゐ被仰渡置候通相心得候様可被申渡候。此旨御差図ニゐ候以上。

九月廿日　　嶋津権五郎

川上直之進殿

右通被仰渡候間、通達いたし候。以上。

九月　　聞役

儀衛正

同廿一日　晴天風子丑之間

一　暁七ツ時分深堀出帆、四ツ時分より向風相成通船不相成、乗戻、七ツ時分肥前之内大村領三重浦ゟ申所ゟ致着船候事。

同廿二日　晴天風子丑之間

一　順風無之滞船之事。

同廿三日　朝雨天風子丑之間

一　今日正林寺拝見ニいつれ茂陸卸いたし候事。

一　八ツ時分相図之貝嶋候付、三重浦碇を起、押船ニゐ夜五ツ時分大村領之内松嶋ら申所ニ碇を入候事。

九月廿四日　晴天風子丑之間

一　朝五ツ時分相図之貝嶋候付押舟ニゐ松嶋出帆、八ツ時分大村領之内面高港ニ致着船候事。

写

平戸御城下通船之節、船飾并船行列之儀者先達ゐ被仰渡置通候。路次楽之儀者先規之通被仰付、順風能走船ニゐ御城下通船有之候ハヽ、船行列路次楽いたし候。不及船飾迄ニゐ可致通船□御差図ニゐ候。以上。

但御家老衆御用人御例役物頭御船奉行御使番乗船之儀者、武具相飾候様被仰付候。其外者捧せ道具相飾ニ者不及段、御船奉行ら右船々船頭共ニ被申渡候。

九月廿四日　　嶋津権五郎

右之通被仰渡候間、致通達候。以上。

九月廿四日　　川上直之進

壱番船　二番船　三番船　四番船

琉役々　大和役々

同廿五日　晴天朝曇天風子丑之間

一　順風無之滞船之事。

一　陸卸ニゐ湯入仕度、聞役より御用人衆相伺御免之上、正使御始いつれも差越湯入相済夜入時分罷帰り候事。

同廿六日　晴天風子丑之間

一　今日茂順風無之滞船之事。

同廿七日　晴天風亥子之間

一　暁七ツ半時相図之貝鳴候付面高港出帆、四ツ時分より向風相成、押船ニゐ七ツ時分平戸松浦肥前守様御城下前ニゐ船行列路次楽ニゐ通船、酉時分同領□(内)田助浦ゟ申所ゟ致着船候事。

路次楽人 大城にや　同 赤嶺にや　同 翁長にや　同 高良にや　同 糸数にや　同 嘉数にや　銅角壱ツ　喇(喇)叭壱ツ

唄(唄)吶壱ツ　銅鑼壱ツ　鞁弐ツ

右楽正乗船ゟ乗付させ候事。

路次楽人 嘉数筑登之　同 新垣にや　同 宮城にや　同 江田にや　同 古波蔵にや　同 大城にや　同 銅角壱ツ　喇(喇)叭壱ツ

唄(唄)吶壱ツ　銅鑼壱ツ　鞁弐ツ

右私乗船ゟ乗付候事。

船行列并船飾。

一　牌壱ツ

但中山王府ゟ有之候所を表ニ相飾。

右一番乗儀衛正船ニ飾。

一　虎旗弐ツ　一　金鞍弐ツ

右二番楽正船ニ飾。

一　鑓　一　龍刀　一　涼傘

但三行艫飾。

一　牌壱ツ

但謝恩正使ゟ有之候を表ニ飾。

右三番乗正使御船ニ飾。

一　鑓　一　傘

右四番乗副使船ニ飾。

一　右ニ付王子綸子、副使紬、賛儀官以下楽童子迄白糸経、従者士供色衣、いつれも□帯下供之面々ニも装束結構ニ有之候様兼ゐ申渡有之候事。

覚

一　琉球人大坂川口着船、荷卸方ニ付ゐ者御屋敷ゟ出役有之、先規を以差引有之賦ニ御座候。何楚混雑者無之賦ニ候得共、琉球人船之荷物之内、小道具数多有之、上荷船ニ積移之節間違等可有之儀茂難計御座候間、川口ニ着

船仕候者、其当日右之船々小荷物之分者、上荷船ニ移シ、四艘之本船より琉球人従者之内三四人ニ小人相付、不目立様先達ゐ御屋敷之様被差登度奉存候。去ル寅年ゑ右通被仰付候間荷才(帝)領ニゐ被差越候ハヽ、小荷物行違も無之、夫々荷主ゑ安気之筈ゟ奉存候。左候得者、残荷数相減、川登当日上荷船ニ移候節、手間取も無之筈ゟ奉存候。

一 私儀川口着船仕候者、琉球人本船ニ乗替等先例之通申渡置、左候ゐ外之御用無御座候ハヽ、直ニ上荷船を以罷登、御留主居ニ取会、船卸場旁之都合申談諸都合仕置、同正嶋之様罷帰り行列乗相勤候儀、被仰付被下度奉存候。

右之通奉得御差図候間、御吟味次第被仰渡被下度奉存候。以上。

九月十一日　　川上直之進

御張紙

申出之通申付候。御船奉行之儀ゑ伏見迄差越致差引先例ニ相見得候間、其通可申渡事。

琉球人道中朝之出立仕廻ニ付、去ル辰年岩下沢右衛門より吟味仕申上趣有之、左条ニ申上候。

一 出立一時前相図之銅鑼を打候節、各起立二番之相図ニ致支度、三番相図ニ夫々備場ニ相揃候先例御座候。右定之通御座候得共、何楚時刻後ニ相成候儀者無之筈候得共、惣躰旅馴不申、其上往来寒冷之時分御座候候得者、起立之儀暫ゑ見合候ものゑ有之。夫故自然ゟ不仕廻相成候様子御座候。依之此節者、一番相図ニ起立候を同宿之大和役々見廻、夫より出立之仕廻方致催促。尤荷物之儀者、付添之小人共受持之儀候間、取始末方せり立相肝煎申候者、時刻後ニ相成候儀も有之間敷哉ニ相考申候。乍然被召附候小人共、多人数之儀ニゐ間々者勤場不頓着之ものも有之由及承申候間、此節万事ニ心掛相勤候儀物頭ゟ分ケゐ申付有之候様被仰渡置被下度奉存候。

一 昼休小休之場所ニゐ緩々との休ミ有之。夫故纔之通法ニゑ夜入候ゑ御座候由、左候得者、乍小事蠟燭費等之儀

入増且荷物何角も混雑ゟ有之儀御座候。小休之場ゟ日々之考を以折角早目ニ被龍立候様聞役用達ゟ可申達事ニ者御座候得共、猶又時々御沙汰被下度奉存候。左候得者、其心得ゟ有之事候間、急度被差急候様可有御座儀ゟ奉存候。右之通去ル辰年道中出立之儀岩下沢右衛門より奉得御差図、去ル寅年ニゟ本文之通奉伺候処、申出之通被仰付候筋ニ帳留相見得申候間、此節ゟ右通被仰付候ハヽ、旁都合ゟ可宜哉ゟ奉存候間、何分御沙汰被仰渡被下度奉存、此段申上候。以上。

九月十一日　　琉球館聞役　川上直之進

御指紙
申出之通申付候。

九月　　但馬

別紙申出之通被仰付候間、致通達候。以上。

九月廿六日　　旅役所

一番船　二番船　三番船　四番船

大和役々　琉役々

九月廿八日　晴天風寅卯之間

一　未明相図之貝鳴候付、田助港より碇を起押船ニゟ、七ツ時分唐津領口之干鹿浦ゟ碇を卸候事。

同廿九日　雨天風亥子之間

一　順風無之滞船之事。

同晦日　曇天間々小雨隆〔降〕風同断

一　今日順風無之滞船之事。

十月朔日　晴天風子丑之間

一　今日茂同断。

同二日　晴天風戌亥之間

一　今日茂同断。

同三日　晴天風同断

一　今日茂同断。

同四日　晴天風同断

一　今日茂同断。

同五日　晴天風酉之方

一　今日風之立願仕候付、いつれも三文ツヽ船頭方ニ相渡候事。

一　未明相図之貝鳴候付口之干鹿出帆、玄海灘通船、夜四ツ時分中国長門之内福浦薩摩泊ニ致着船候事。

一　乗船之蔵役山田弥左右衛門殿手伝日用弐人召列、夫々之手当用と〻未明大坂ゟ小船ゟ被差越候事。

一　太守様御儀九州路御通行。去月十七日小倉より御渡海、陸御通被遊候段御召船此所滞船ニ付承知仕候事。

同六日　晴天風午未之間

一　今日五ツ時分貝鳴候付薩摩泊出帆、四ツ時分下之関汐掛、汐合見合、七ツ時分同所出帆、入相時分豊前小倉小笠原大膳太夫様御領田之浦泊致着船候事。

十月七日　晴天風申酉之間

一　未明相図之貝鳴候付田之浦出帆間々押船ニゐ、夜入時分長門之内萩領松平大膳大夫様御領新泊致着船候事。

同八日　晴天風戌亥之間

一　未明相図之貝鳴候付新泊出帆間々押船ニゐ、夜五ツ時分長門領之内笠戸村深浦ゟ致着船候事。

同九日　晴天風酉之方

一　未明貝鳴候付深浦より出帆、追ゐ向風相成、押船ニゐ通船難成、乗戻し笠戸浦ゟ致汐掛候事。

一　湯入仕度聞役ゟ相伺御免之上、正使御始役々上陸湯入、酉時分罷帰り候事。

同十日　晴天風子丑之間

一　今日朝五ツ時分相図之貝鳴候付笠戸浦出帆間々押船ニゐ、七ツ時分長門領之内あなせ浦ニ致着船候事。

一　路次楽之儀大坂近辺之由ニゐ、稽古致させ候様聞役より御家老御伺之上相済候段問合有之候付、是より先吹させ候事。

十月十一日　晴天風戌亥之間

一　明六ツ時分貝鳴候付あなせ浦出帆、間々押船ニゐ、酉時分伊予之内津和浦ニ碇を卸候事。

同十二日　晴天風申酉之間

一　夜八ツ時分相図之貝鳴候付津和浦出帆、走船ニゐ、酉時分備後之鞆港ニ致着船候事。

同十三日　晴天風同断

一　今日五ツ半時分相図之貝鳴候付鞆港出帆、走船ニゐ、酉時分天下領備前岡山之内縄嶋瀬戸致着船候事。

同十四日　晴天風亥之方

一　今朝五ツ時分相図之貝鳴候付、縄嶋瀬戸出帆、泙ニ相成、終日押船ニゐ、夜九ツ時分播州姫路領室港致着船候事。

同十五日　朝曇天四ツ時分ゟ間々小雨降ル

一今日朝五ツ時分相図之貝鳴候付、室港致出帆候処、四ツ過時分より風波猛敷相成、播州灘通船之砌別ゐ及難儀、七ツ過時分天下領之内兵庫泊に碇を卸候事。

同十六日　曇天風申之方

一今日五ツ時分相図之貝鳴候付兵庫□(港)致出帆候処、風波強摂州灘新在家浦に致汐掛、漸々風波猛敷相成、御用人衆ゟ致陸卸候様被仰渡候付、八ツ時分御書翰樫正使副使御始いつれも被成上陸、新在家見掛、屋利(やり)助所に致止宿候事。

附

一　宿之儀者楽正私乗船人数一家正使副使三軒、御家老座御取計を以御借請有之候也。

一　正使御宿に銀弐枚、副使私宿に壱枚ツヽ、為宿礼蔵方ゟ差遣候也。

十月十七日　曇天風未申之間

一今日九ツ時分正使御宿に相揃、八ツ時分乗船に乗付候処、いまだ波立強、出船難成、夜四ツ時分より風波静ニ相成候付、押船ニゐ出帆、明六ツ時分大坂木津川口に着船、余船も追々着船有之候事。

同十八日　曇天風申之方

一今朝五ツ時分大坂船問屋之者川内案内ゟ〻正使御乗船に乗込、挽船等出、船行列ニゐ順々致川登、四ツ過時分

同正嶋辺に繫留候事。

附関船行列一番儀衛正、弐番楽正、三番正使、四番副使、いつれも船飾等有之候也。

明日川登被仰渡候付、船々乗組中其考を以未明相仕舞居、様子次第川御座船に乗移り候儀共兼ゑ賦り之通無間違様相心得、尤各乗船に積入候荷物之儀も、成丈今日中大坂御屋敷迄可差越旨聞役より致承知候間、此段致通達候。以上。

十月十八日　　宇地原親雲上

二番船　三番船　四番船

同十九日　晴天風子丑之間

一　今日川登之筈候処、大坂表御手当向御差支之儀有之、明日川登被仰付候段致承知候事。

写

今日八ツ時分より

公義御船奉行川下有之筈候間、船々手水等迄猥不致徘徊、不敬之体無之様中乗より堅可申付候。明廿日川登之節御大名様御船に琉球人乗付、其外川御座船に都ゑ乗付相済候上、拍子木相図ニ川登之筈候。若哉船々之内瀬掛等有之節者、船々相留一所ニ川登有之候様可相心得候。此旨致通達候。以上。

十月十九日　　嶋津権五郎

関船々中乗中

明廿日琉球人行列乗之面々、朝正五ツ時行列船に乗移候様可被致手当置候。此旨致通達候。以上。

十月十九日　　嶋津権五郎

関船々
中乗中

一 松浦肥前守様川御座船　　但儀衛正乗船　　路次楽人九人

一 亀井能登守様川御座船　　但使讃以下乗船　　路次楽人九人

一 小笠原大膳太夫様川御座船　　但正使御乗船　　路次楽人三人

一 嶋津筑後守様川御座船　　但副使乗船

右之通被配付置候間、面付書を以夫々之関船に今夕乗付居、明朝乗移之砌無間違様可被取計候。以上。

十月十九日　　宇地原親雲上

儀間親雲上

一 船行列人数賦書正使方日記委細相見得候付略す。

同廿日　　晴天風子之方

一 九ツ時分御乗船被成候様御船奉行御目付衆被罷出御住(注)進有之候付、王子副使琉冠服、讃儀(ママ)官以下役々冠なし、楽童子金花々簪差、従者以下士供迄大帯、いつれも足袋はき、王子御始役々小屋形船ゟ川御座船に御乗移、船

行列之通順々罷登、船諷路次楽致替々、酉時分大坂御屋敷前着船、波戸場ゟ上り、道左右ニ立並、御書翰櫃引次、王子御始いつれゟ御本門より御玄喚御通被成候事。

但副使以下楽童子迄御内玄喚、其外供琉球人末之入口ゟ罷上り候事。

一 船々繋場ゟ御屋敷迄之間川筋船あたけ有之、公義御役人衆段々出役ニゐ御下知有之候事。

一 着坂之祝として王子同席ニゐ副使讃儀官楽正聞役御用達両人ニ蔵方調ニゐ、吸物三ツ酒肴出、後二汁三菜之御料理御菓子出、中官以下楽童子迄次之間ニゐ右同断、士供ニ末之間ニゐ酒肴出、一汁二菜之料理、下供ニ者一汁一菜之御賄有之候事。

一 御屋敷手前波戸場ゟ儀衛正使賛乗船并供琉人乗船も王子御乗船ゟ先ニ寄、先達ゐ致上陸、夫より王子副使順々上陸被成、惣琉人御門入、終迄路次楽人御門前左右ニ相立、楽仕候事。

同廿一日　晴天風子之方

明廿二日王子其外ニ竹田からくり等見物被仰付候条、明朝六ツ半時相揃候様琉球館聞役ニ申渡、可承向ニも可申渡候。

十月廿一日　　但馬

参府之琉球人滞坂中者

御屋敷内外徘徊不相成事候処、於下々不弁之者共御屋敷致徘徊候も有之哉ニ相聞得、甚以如何之至候間、右体之儀屹ゟ無之様可致取締旨、琉球館聞役并掛り見聞役ニ可申渡候。

十月　　但馬

右之通被仰渡候間、可被其意得候。以上。

十月廿一日　　宇地原親雲上

儀衛正

一　他国人ニ聞得候所ニゐ大和言葉仕間敷事。

一　火用心専可入念事。

一　大小用所無作法仕間敷事。

一　路次楽人并供之者共賄所ニ参候外、猥ニ徘徊仕間敷事。

一　御屋敷ニ罷在候付ゐ者掃除等仕可罷在候。自然立後無始末相見得候ゐ者、不可然事候間、無左様可仕事。

右者先達ゐ申渡置候得共、猶又可入念候。此外諸事締向之儀、兼々申渡置候旨趣無取違様、家来并支配下之者共ニ厳重可申渡候。以上。

十月廿一日　　宇地原親雲上

儀衛正　　沢岻親方

同廿二日　晴天

一　今日竹田からくり芝居見物被仰付候付、正使副使役々御書院ニ参上、但馬殿笑左衛門殿其外御役々衆御出会、正使副使御客居表、中官楽童子同六尺廂、従者士供其外末々之者共者御縁軒之差掛ニ出席、四ツ時分ゟからくり芝居相始、御茶御菓子切飯〻物被下、中入之時王子以下楽童子迄奥御書院ニゐ一汁二菜之御茶漬被下、従者以下ニ者御料理之間ニゐ切飯〻物被下、路次楽人下供ニも同断被下、左候ゐ最前席々ニゐ又々見物、半御吸物

御酒肴御菓子等出之、旁畢ゐ王子より権五郎殿御取次、御礼被仰上、夜之四ツ時分退去いたし候事。

同廿三日　晴天

明日川登付ゐ者、御大名様方御座船に乗込候。役々末々ニ至作法等結構有之候様、尤役々之外供之者共ニ者、草りふみなから御座船に乗込候儀、決ゐ不相成事候間、是又無間違様可被申渡候。以上。

十月廿三日　宇地原親雲上

儀衛正　路次楽人にも可被申渡候。

明廿四日六ツ半時大坂出立被仰付候間、諸事無支様相調、刻限前以本殿に可被相揃候。尤夜具者毛せん又者風呂敷包ニゐ名札相記、御内玄喚之脇に差出、明荷才領に引渡、数ニゐ請取候様可被相心得候。以上。

十月廿三日　宇地原親雲上

儀衛正　路次楽人に義可被申渡候。

同廿四日　晴天

一今日伏見川上ルニ付、六ツ半時二度之楽相済、三度之楽ニゐ正使副使琉冠服、讃儀官(ママ)以下役々冠なし、楽童子金花々簪差、大坂御屋敷繰出、正使副使川御座船に御乗付、其外役々も乗付候事。

但衣裳者儀衛正以下紗綾羽子之間。

一朝晴者於御屋敷相仕廻、昼飯夜飯者御物御取替調ニゐ候也。

一船飾行列大坂川上り之時同断。

一 五ツ時より船行列、路次楽船諷替々いたし川登仕候。大坂御城元之迦ニゐ王子副使冠御迦し、楽諷相止。是ゟ天下人足出、船々夜通挽登候事。

但川所々ニ小船数十艘川方御用小差を立警衛有之、奥船より荷物等積登候也。

一 杉御重四組

但饅頭御〆物

右拝領被仰付之由ニゐ、御留主居衆ゟ聞役方ニ被相下候付、王子被頂之先例之通余船三艘ニゑ一組完被御遣候付、いつれも頂之候。右御礼之儀伏見着之上、聞役を以但馬殿ニ被申上筈候事。

十月廿五日　曇天

一 明七ツ時分淀之御城下前通船之時、正使副使冠楽船諷替々いたし、伏見近より又々船行列ニゐ、七ツ時分京橋東之浜より正使副使乗物、其外歩行ニゐ行列帳之通相備、伏見宿御本陣大塚小右衛門所ニ繰入候事。

一 儀衛正儀間親雲上、嵩原親雲上事、病気漸々重相成、養生不相叶、夜五ツ時分嵩原、九ツ時分儀間相果、絶言語候。早速聞役方ニ届申出、聞役より及御届候事。

同廿六日　雨天

一 今日正使副使琉冠服乗物、賛儀官以下同冠服、楽童子金花々簪差、以上加籠ゟ四ツ時楽行列ニゐ御仮屋ニ罷上ル。奉伺御機嫌、御目見御礼等、都ゐ御次第書之通相済、御暇乞被申上、八ツ時分退出仕候事。

附

一 御機嫌伺ニ付、何楚楽行列仕候先例も無之候得共、此節ハ京都御大名様方御見物御差越有之由ニゐ、楽行

列ニゐ罷通候様被仰渡置本文之通仕候。此時行列一件者、行列直横目構ニゐ候故略ス。

一　御支度王子副使緞子、賛議官楽正綸子、議衛正以下役々紗綾、楽童子綸子着用候也。

同廿七日　曇天

儀衛正
儀間親雲上
讃議官役人
嵩原親雲上

右者今月十七日比ゟ風引気分有之候処、日増病気重方相成、養生不相叶、一〔昨日〕廿五日夜両人致病死、夜前当所大黒寺境内ニ葬方被仰付候。此段賛議官聞役ゟ館内并琉球ニも御問合有之候事。

一　儀間嵩原葬場并葬式等之儀、蔵方取調ニゐ以後返銀之筋ニ役々中致相談、正使副使御案内相済、諸事旅蔵方被取計事候事。

一　正使副使以下中官楽童子従者ゟ儀間嵩原ニ香奠被御遣候。委細正使方日記ニ相見得候故略ス。

本文十月廿七日申出通被仰付候段、御取次御用人嶋津権五郎殿御取次を以被仰渡候事。

覚

儀衛正儀間親雲上病死ニ付代役正使々賛
譜久山親雲上
正使々賛譜久山親雲上代役正使従者
浦崎親雲上
正使従者浦崎親雲上代役正使内
屋嘉比親雲上
賛議官従者嵩原親雲上代役賛議官内
知念親雲上

右之通琉球役共ゟ吟味仕申出候付、此段申上候。以上。

十月廿六日

琉球館聞役
川上直之進

同廿八日　晴天

一　今日伏見出立ニ付、朝七ツ半時分二度之楽相済、五ツ頭時分三度之楽ニゐ正使副使琉冠服、賛議官以下役々冠なし、楽童子金花□(々)簪差、正使玄喚前ニゐ御乗轎、副使以下役々門外ゟ乗物加籠ニゐ行列帳之通路次楽ニゐ繰出、

太守様御発駕、御跡より兼ゐ仰渡候道筋罷通、藤之森ニゐ行列楽止、王子乗物ニ被召替勧条(修)寺村ニゐ宮様行列被遊御覧候旨被仰渡候付、八ツ時分右村入口ゟ王子御乗轎楽行列いたし、勧条(修)寺村杉本加賀守所昼休ニゐ出立、随心院御門主様御領内、御桟敷前楽行列いたし、村迦ニゐ楽止、暫茶屋ニ小休ニゐ、夫ゟ王子乗物被召替、いつれも出立、大津宿入ニ付先例之通又候轎え被召替、楽行列いたし、酉時分近江之内大津止宿いたし候事。

但御支度、正使副使緞子、賛議官楽正楽童子綸子、儀衛正以下役々さや羃子之間、以上大帯着用候也。

一

太守様御事、伏見ゟ先達ゐ被遊御発駕、今晩草津宿御本陣被遊御泊候事。

一　路次楽人行列無之場所者、途中馬上ニゐ差越、行列立候所ニ扣居候様申渡候。供琉人も馬上ニゐ罷通候事。

一　御泊宿御出入楽仕候先例ニゐ、是ゟ先同断故略ス。

一　行列一件ハ、行列直横目受込ニゐ候事。

一　上道中御伝馬百疋、人足五百三拾弐人、被差出候事。

一　美濃路、東海道筋、諸国為御馳走通筋払除結構有之、立砂手桶飾且出役足軽先払案内者等出候事。

二番宿

儀衛正上下弐人　譜久山親雲上
正使々贄上下弐人　与儀親雲上
右同上下弐人　玉城親雲上
副使々贄上下弐人　与古田親雲上
楽師上下弐人　富山親雲上
路次楽人五人
供琉人壱人
異国掛物役上下二人　鎌田亥之丞
唐通事上下弐人　加納平兵衛
琉江戸手伝壱人
足軽
小人
人足六人

右通兼ゐ宿賦り有候也。

一　当日明荷物受取渡之義共小人受込ニゐ候事。

同廿九日　晴天

一　朝六ツ時分早晩之通三度之楽ニゐ大津出立、草津小休ニゐ七ツ時分守山宿昼休、入相時分武佐止宿いたし候事。
　但御支度同断故略ス。

一
太守様御事、今朝草津御本陣御発駕、今晩愛知□[川]御本陣御泊被遊候事。

十一月朔日　晴天

一　明六ツ時分早晩之通三度之楽ニゐ武佐出立、愛知川小休ニゐ、八ツ時分宮宿昼休、七ツ時分鳥居本小休、酉時分番場ゟ申所止宿いたし候事。
　但御城下無之故、御支度王子綸子、副使以下中官さや白糸経之間、楽童子紬ニゐ候也。

一
太守様御事、愛知川御発駕、今夕醒ケ井御本陣御泊被遊候事。

一　今日摺針峠茶屋ニ御家老御用人正使副使其外琉大和御役々衆ニ茂名物之餅吸物酒肴、蔵方取計御馳走仕候先例ニゐ候処、段々混雑ニゐ過行候付、御家老御用人衆ニ聞役より御断被申上相済候事。

同二日　晴天

一　明六ツ時分早晩之通三度之楽ニゐ番場出立、九ツ時分今洲昼休、八ツ時分関ケ原小休、七ツ時分垂井致止宿候事。
　但御支度昨日同断。

太守様醒ケ井御発駕、今晩墨俣御本陣、御泊被遊候事。

明日七ツ時出立いたし候様被仰渡候間、八ツ半ニ者相揃候様末々之者迄も分ゐ可被申渡候。尤明日八川渡等も

数多有之候□[由]御座候間、刻限前以不相揃候ゐハ不都合之至候間、無間違可被致通達候。此段早々申達候。以上。

十一月二日　　聞役[旅方]

儀衛正

同三日　曇天間々小雨降ル

一　明七ツ半時早晩之通三度之楽ニゐ垂井出立、吉田小休、夫ゟ濃州戸田采女守様御領、御城下大垣之町通、楽行列。同所小休、五ツ時分沢渡川着、正使副使采女守様ゟ塗御座船二艘出、其外ハ伝間数十艘ニゐ罷渡、九ツ時分尾州黒保宿(墨俣)昼休、黒保川舟渡(墨俣)、さかい川舟橋懸渡有之、起川舟渡ニゐ起宿小休、七ツ半時分尾州稲葉致止宿候事。

但御支度昨日同断。

一　太守様御事、墨俣御本陣今朝御発駕、今夕清洲宿御本陣被遊御泊候事。

一　川渡ニ候ゐ者、川越方役々衆并所之御役人衆御出張ニゐ御下知有之候事。

一　楽師富山親雲上事、此間ゟ病気有之、漸々草臥相増、養生不相叶様、八ツ時分致死去□[笑]止之至絶言語候。御届向并葬式一件都ゐ蔵方計を以相調候事。

一　正使副使以下中官楽童子従者ゟ富山親雲上ゟ香奠被御遣候。諸事、正使方日記ニ相見得略ス。

同四日　晴天

一　明六ツ時分三度之楽ニゐ稲葉出立、四ツ過時分清洲宿小休、九ツ過時分福満寺ゟも小休、八ツ時分尾張大納言様御城下名古屋町通楽行列、七ツ時分熱田宮宿昼休、夜之五ツ時分鳴海止宿いたし候事。

但

一　御支度昨日同断。

一　尾張町通三里有之、路次楽続兼候故、町入口より町半、又ハ町出口并宮御本陣前、都合四度楽仕候也。

一

太守様御事、今朝清洲御本陣御発駕、今夕池鯉鮒宿被遊御泊候事。

一　干菓子一重

一　蜜柑一重

右尾張様ゟ正使に拝領物之内御裾分被下候事。

同五日　雨天

一　明六ツ時分早晩之通三度之楽ニゐ鳴海出立、四ツ時分池鯉鮒宿小休、八ツ時分大浜茶屋昼休、暮六ツ時分藤川宿小休、夜四ツ時分御油致止宿候事。

但御支度昨日同断。

一

太守様今朝池鯉鮒宿御発駕、当所御本陣被遊御泊候事。

一　右ニ付被仰渡置候通当所着、夜入候間御着之御祝儀且御機嫌御伺、正使副使ゟ聞役を以被申上候事。

一　雨天其上長途致夜通候付、加籠かき六人に気付として壱朱銀一切相与へ候事。

同六日　曇天

一　明六ツ時分早晩之通三度之楽ニゐ御油出立、伊奈村小休、九ツ時分松平伊豆守様岡崎御城下楽行列、八ツ時分同州松平伊豆守様御城下吉田之町通、楽行列、同所昼休、七ツ時分二川致止宿候事。

但御支度昨日同断。

一

太守様今朝御油御本陣御発駕、今夕白須賀御本陣被遊御泊候事。

同七日　晴天

一　明六ツ時分三度之楽ニゐ二川出立、四ツ時分白須賀小休、八ツ時分荒居宿昼休ニゐ、夫ゟ正使副使琉冠服、轎乗物、賛議官以下冠なし、行列帳之通相備、いつれも歩行ニゐ今切関所前通、今切川正使副使者松平伊豆守様塗小屋形船弐艘出、其外ハはぎ船数十艘ゟ相渡、舞坂戸渡口ゟ乗物加籠ニゐ相越、七ツ時分同所致止宿候事。

但御支度正使副使緞子、賛議官以下中官さや羓子、楽童子綸子金花々簪差、従者士供紬白糸経、以上大帯着用、下供色衣いつれもあい踏候也。

一

太守様今朝白須賀御本陣御発駕、今夕見附御本陣御泊被遊候事。

一　荒居御休ゟ船畑迄行列。

路次楽人　　鎗

従者小姓

儀衛正
譜久山親雲上

掌翰吏
菅翰　与那覇親雲上

涼傘　王子

従者小姓

路次楽人

龍刀

衣家　鏑　衣家　賛議官　供　役人　鏑　楽童子　同　楽師　傘

手笠持　小姓

長柄持　副使　草り取　楽童子　同　楽師

草り取

雨具持　小姓

八巻家持　傘　八巻家持　楽正　供　役人　楽童子　同　楽師

従者　同　供　同　従者　同　供　同

一　御関（所）前罷通候付、前廉御目附梅田九之丞殿為案内差越被居候。

一　中官楽童子各傘為持、其外衣家加籠乗掛等、休宿ゟ先達ゐ舞坂表に附々小人ニゐ差越置候事。

一　王子御乗船小屋形船に副使楽童子六人御用達壱人中小姓両人足軽一人小人一人乗組、賛議官以下役々其外之琉人ハ、はぎ小船ゟ差越候事。

一　御関所前罷通候付ゐ者、行列直ゟ下知有之、船畑に茂御歩行衆御出張ニゐ差引有之候事。

一　舞坂着船場ゟ楽行列ニゐ、泊宿之様差越候事。

同八日　雨天

一　明七ツ時分早晩之通三度之楽ニゐ舞坂出立、四ツ時分□（過）州水野越前守様御城下、楽行列ニゐ浜松宿昼休、八ツ時分池田宿小休、八ツ過時分天龍川舟渡ニゐ、七ツ時分見附宿小休、酉時分袋井致止宿候事。

一　天龍川渡場双方公義出役有之、尤琉人旁川越横目衆も出会御差引有之候事。

一　太守様今朝見附御本陣御発駕、今夕掛川御本陣御泊被遊候事。

同九日　晴天

一　明七ツ時分早晩之通三度之楽ニゐ袋井出立、五ツ時分原川御立場小休、九ツ時分遠州大田備後守様御城下、掛川之町通、楽行列ニゐ同所小休、八ツ時分日坂宿昼休、七ツ時分菊川茶屋小休、七ツ過時分大井川、天下人足出、轎乗物加籠台越、徒立之面々肩車ニ載相渡、酉時分嶋田致止宿候事。

但御支度昨日同断。

一　今日

太守様嶋田被遊御泊御相宿故、兼ゐ相伺置候通正使副使以下役々、聞役案内ニゐ御本陣参上、御着之御祝儀且被奉伺　御機嫌、正使ゟ御肴進上被仕、済ゐ御暇乞被申上退出仕候事。

一　菊川茶屋ニゐ所之名物、菜飯、田楽、御家老御用人衆正使副使御寄合、其外役々迄蔵方調ニゐ御馳走有之候先例候処、御用人衆御用多御取込之由ニゐ御断ニ付、此節ハ無其儀候事。

一　大井川渡口双方天下御役々衆御出張御下知有之、渡せ人足五六百人出おびたゞしき事。

同十日　晴天

一　明六ツ時分早晩之通三度之楽ニゐ嶋田出立、五ツ半時分三軒屋岩崎蔵所小休、九ツ時分駿州本田伯耆守様御城

下楽行列ニゐ藤枝小休、九ツ過時分岡部宿昼休、八ツ時分安部川罷渡、同領弥勒町茶屋小休、七ツ時分同州御城下代増田伊勢守様御城下府中之町通楽行列、同所致止宿候事。

但御支度昨日同断。

一

太守様今朝嶋田御本陣御発駕、今夕奥津御本陣御泊被遊候事。

一　阿部川三ケ所之内、弐ケ所者御馳走之由ニゐ新敷懸橋有之、左候ゐ天下人足出、大井川渡せ之通銘々相渡候事。

一　所之名物蔵方ゟ餅馳走有之候事。

同十一日　晴天

一　明六ツ時分早晩之通三度之楽ニゐ府中出立、四ツ時分駿州小吉田小休、九ツ時分江尻小休、八ツ時分奥津宿昼休、七ツ時分倉沢小休、暮六ツ時分同州蒲原致止宿候事。

但御支度昨日同断。

一　江尻川御馳走之由ニゐ新敷懸橋等有之候事。

一

太守様今朝奥津御本陣御発駕、今夕吉原御泊被遊候事。

同十二日　晴天

一　明六ツ時分早晩之通三度之楽ニゐ蒲原出立、五ツ時分駿州岩淵宿小休、九ツ時分富士川舟渡ニゐ同州吉原小休、

八ツ時分同州柏原小休、七ツ時分同州原宿昼休ニゐ、酉時分同州水野出羽守様御城下楽行列ニゐ沼津宿致止宿候事。

但御支度昨日同断。

一 富士川舟渡ニ付ゐ者、所之役々衆并川越方役々御出張有之候事。

一 太守様今朝吉原御本陣御発駕、今夕三嶋御泊被遊候事。

琉球人立方明朝出立、七ツ半時早目ニ申付候。左候ゐ御関所前龍通候付ゐ者、先達ゐも申達置候通、無作法之体無之様末々迄も可被申渡旨、琉球館聞役ゐ申渡被召附候面々ゐも可申渡候。

十一月十二日　　但馬

他所之者ゐ琉人直談不相成段者申渡置通之儀故、心得違之儀者無之筈候得共、明日ゟハ箱根畑宿同所湯元細工物并大森辺細工品有之場所故、琉人望之品も候者、大和役々ゟ弁別いたし可遣候。聊之品迚も決ゐ直対取入候儀禁止候条、此旨琉球館聞役ゐ申渡、物頭其外可承向々ゐも可申渡候。

十一月十二日　　但馬

琉球人江戸着当日、王子宿ニゐ御料理御賄被下候次第ゟ抜書。

一 王子副使賛議官ゐ者、二汁五菜之御料理、御肴御吸物御酒御菓子御茶迄、被下候。給仕、小姓。

但御馬廻新番両人、相詰挨拶有之、表御茶道可相勤候。

一 中官以下ゐ者二汁三菜之御料理、御酒迄被下候。聞役書役蔵役ゐも同断被下候。

一 右外末々琉人ゐ及一汁一菜之御賄被下候。琉球館人足ゐも同断被下候。

中山王使者、江戸着路次之次第ゟ抜書。

一 御参府之当日鈴ケ森辺ニ御先ニ罷越居、御通行済、正使副使乗轎乗物、率添馬中官楽童子御借馬ニゐ乗馬、正使并惣琉人着服等先例之通御行列ニ引続可差越候。

一 中官楽童子加籠者、面々行列之場ニ釣せ、長柄傘も行列も可為持候。

一 路次楽人并供琉人鈴ケ森ゟ歩行。

一 路次楽者品川宿口ゟ上御屋敷迄、惣琉人御屋敷ニ繰入候迄者、駒寄内ニ左右ニ相立、楽いたし繰入相済、楽人表御門ゟ可罷通候。

一 儀衛正掌翰史駒寄内供屋前扣居、副使駒寄ニ相越候節弐人共先達ゐ御内玄喚ニ罷上り、御取次之間三之間罷通、書翰用達ニ預置候。

一 牌龍刀鎧涼傘書翰櫃、駒寄内警固番所辺ニ相立、路次楽引取候節表御門ゟ可繰入候。

一 副使駒寄手前ニゐ下乗、中官楽童子ハ東御門を過、表御門駒寄ゟ五六間手前ニゐ可致下馬候。左候ゐ表御門罷通御内玄喚ゟ罷上り。

同十三日　雨天

一 明七ツ半時分早晩之通三度之楽ニゐ沼津出立、五ツ時分豆州藤沢郡箱根領江川太郎左衛門御代官所三嶋宿小休、九ツ時分相州山中村笹屋助左衛門所小休、八ツ時分同州大久保加賀守様御代官所御本陣、川田覚右衛門所昼休ニゐ、夫ゟ楽行列ニゐ箱根御関所前御通、七ツ過時分畑宿小休、酉時分湯元米屋門右衛門所小休、夜五ツ時分加賀守様御城下楽行列ニゐ小田原致止宿候事。

但御支度荒井御関所御通之節同断。

一 正使副使轎乗物、賛議官以下冠なし。歩行之筈候処、雨天ニ付ゐ者何れも加籠御免ニゐ御関所前加籠之戸開罷通、左候ゐ御関所過候ゐ、王子乗物ニ被召替楽止候事。

一 箱根坂別ゐ難所、其上雨天ニゐ候故、加籠舁人足六人ハ気付ら〳〵弐朱銀一切相与へ候事。

一 今日

太守様当所御相宿之段、兼ゐ被仰渡置候通御着直ニ正使副使賛議官中官楽童子迄、聞役案内ニゐ御本陣ハ参上、調所笑左衛門殿御取次、御着之御祝儀、且御機嫌伺被申上、正使ら進上物等被仕、済ゐ御暇之申上被成御帰候事。

但御支度正使副使緞子、賛議官中官紗綾、以上琉冠服、楽童子綸子、金花々簪差候也。

同十四日　晴天

一 明五ツ時分早晩之通三度之楽ニゐ小田原出立、四ツ時分梅沢宿小休、八ツ過時分平塚昼休、七ツ時分馬入川舟渡ニゐ南郷松屋佐右衛門所小休、暮六ツ時分戸塚致止宿候事。

但御支度常之通、小御帯何れも同断也。

一 馬入川舟渡ニ付ゐ者富士川舟渡之時同断。所々御役々御出張有之候事。

一 太守様今朝小田原御本陣御発駕、今夕大磯御本陣御泊被遊候事。

同十五日　朝曇天七ツ時分ら雨天

一　明七ツ半時分早晩之通三度之楽ニゐ戸塚出立、五ツ時分生麦藤屋伝七所小休、四ツ過時分程ケ屋昼休、七ツ時分川崎致止宿候事。

但御支度昨日同断。

一

太守様今朝大礒御本陣御発駕、今夕神名川御本陣御泊被遊候事。

明十六日琉球人ニ者、川崎駅止宿ゟ直ニ鈴ケ森辺迄ハ御先ニ差越候様被仰付候得共、神名川御立ニゐ大森ニ御小休被為　在候付、川崎駅御通過之上御都合見合同所罷立、御跡ゟ差越、大森御立之上鈴ケ森辺ニ相休、其所ゟ正使乗轎之儀者、先達ゐ申渡候次第書之通被仰付候間申来候条、此旨琉球館聞役ニ申渡被召付候。面々ニも不洩様可申渡候。

十一月十五日　　但馬

別紙之通被仰渡候間、早々荷物しらへ行列外之品ハ、今日ゟ江戸御屋敷之様被差遣度、万一も此儀間違相成候ゐ者別ゐ不都合相成事候付、屹ゟ無間違様被相心得取しらべ方有之度、此段申達候。以上。

十一月十五日　　川上直之進

明十六日江戸着付、品川脇御本亭昼休ニゐ、此所より正使副使琉冠服轎乗物、賛儀官以下中官琉冠服、楽童子金花々簪差、以上騎馬ニゐ罷立候先例候間、此段致通達候。以上。

但正使副使賛儀官楽正緞子、儀衛正以下中官綸子、楽童子緞子、従者士供紗綾羃子、下供色衣着用、いつれも白足袋はき、あい踏候様、且又銘々加籠者行列跡ニ釣せ、長柄衣家雨具類為持候間、左様可被相心得候。

十一月十五日　　賛儀官

儀衛正

明十六日琉球人為御見物、高輪に松平美濃守様松平伊予守様其外様、田町御見物に者御隠居様其外様被為入、上御屋敷東角御物見に者

御前様被為入候得共、御供人数右者諸所下馬下乗并鑓も不及伏、琉球人方も同様被仰付段申来候条、此旨琉球館聞役に申渡被召付候。御役々等不洩様可申渡候。

十一月十五日　　但馬

道光十二年壬辰　天保三年　十一月十六日　朝雨天九ツ時分ゟ雨降ル

一今日

太守様神名川御立ニゐ大森に御小休被為在候付、川崎駅御通過之上御都合見合、同所罷立御跡ゟ差越、大森御立之上鈴ケ森辺に相休、其所ゟ行列ニゐ差越候様、且川崎ニゐ御行列拝見被仰付候旨被仰渡置、明六ツ時分御通行被遊候付、王子副使各御泊之御本陣玄喚に御出、役々末々迄板之間ゟ土地に掛り罷出、楽正儀衛正者各々宿々玄喚ニゐ何れも御行列拝見仕、左候ゐ早晩之通三度之楽ニゐ、四ツ頭時分川崎出立、六郷川舟渡ニゐ品川脇御本陣昼御休、夫ゟ王子副使琉冠服轎乗物、跡ニ馬壱疋完率添、中官同冠服、楽童子金花々簪差、以上御借馬ニゐ騎馬、唐長柄差、九ツ時分行列繰出鈴ケ森辺に差越、御行列御跡引次差越、七ツ半時分芝御屋敷着仕候事。

但

一王子副使讃儀官楽正緞子、儀衛正以下楽師迄綸子、楽童子緞子、従者士供紗綾羽子、以上大帯着用、下供色

衣いつれも白足袋はき、あい踏候也。

一　銘々加籠者行列之跡ニ釣せ、長柄衣家雨具等為持候也。

一　供琉人并路次楽人者、品川御本陣ゟ歩行高輪御屋敷御物見御大名様、田町御物見ニ

御隠居様其外様被為入、上御屋敷東角御物見ニ者

御前様被為入、行列被遊　御覧候段被仰渡候付、其辺路次楽繁く仕候様申付候也。

一　王子表御門駒寄外御下轎、御本門御通御玄関ニ被罷上候節、御用人御出迎御取付之間屏風仕切上ニ御案内、讃儀官通詞者二之間末ニ扣。

一　上御屋敷ニ惣琉人繰入候迄、駒寄内ニ路次楽人左右ニ相立、楽いたし、入終候ゐ楽人表御門ゟ罷通候也。

一　儀衛正掌翰使駒寄内御供屋前扣居、副使駒寄ニ相越候節、弐人共先達ゐ御内玄関ゟ罷上、御取附之間三之間ニ罷通。

一　副使駒寄手前ニゐ下乗、中官楽童子者東御門を過、表御門駒寄ゟ五六間手前ニゐ下馬、表御門罷通御内玄関ゟ罷上、御取次番御用人御出迎御案内、副使御取附之間二之間屏風仕切下ニ御案内、中官楽童子三之間ニ列座。

一　御出座前、王子表御書院中之間、副使讃儀官并中官以下、順々御廊下ニ扣居。

一　正使副使讃儀官御目見相済、中官以下楽童子五六人完、御襖間涯ゟ二畳目ニゐ御礼、御奏者番御出会不及御披露候。

一　三位様

御隠居様

若殿様に伺御機嫌、右御礼、謁御家老衆被申上之、何れゟ御退去。

一　退去之節御用人御取次番最前出迎之所迄、被相送候。

一　王子御宿ニゐ御料理被下候付、御馬廻新番衆御挨拶ニゐ、正使副使讃儀官に御吸物御銚子御菓子二汁五菜之御料理御引肴、中官楽童子二汁三菜之御料理御酒迄被下候。従者士御供に者勝手之間ニゐ一汁二菜之御料理、路次楽人供琉人に者末之間ニゐ一汁一菜之御賄被下候事。

一　御料理被下候御礼、聞役を以申上候事。

一　右旁相済、王子副使以下役々、王子御宿ニゐ蔵方より吸物酒肴出、御祝有之候先例候得共、段々混雑ニゐ、此節者無其儀候事。

一　宿々茶具多葉粉盆其外当用道具之類、先手当ニ差越候蔵役共ゟ兼ゐ見合入付有之候事。

同十七日　霜天

一　副使宿

上之間副使、右次之間座ニ楽正儀衛正楽師楽童子住居候事。

一　今朝正使副使以下役々、御見舞申上候事。

一　正使御休式者、早晩之通御台所方請込ニゐ上ル。副使以下役々末々迄、蔵方ゟ一手賄三度有之候事。

同十八日　雨天

一　諸事取締向之儀、兼ゐ段々申渡置候通聊無緩疎可相守事。

一　火用心別ゐ入念、夜入寝前ニ火消させ、正使御宿中者当番之使讃、副使御宿中者使讃、楽正宿ㅂ楽師楽童子居間者楽正、議衛正宿ㅂ路次楽人居間者議衛正ゟ、毎晩消跡之首尾可被承届事。

一　各居間ゟ外出候節者、広袖衣裳致着用、小袖相用間敷事。

一　宿々荷物衣裳類不取散、大小用所ニ麁抹無之様可致事。

右之通御殿中之儀ニ候条、就中取締向厳重行届候様、毎々可被加下知候。以上。

十一月十八日　　小禄親雲上

議衛正

同十九日　　曇天

同廿日　　晴天

同廿一日　　晴天

同廿二日　　曇天

同廿三日　　雨天

同廿四日　雨天

一　明廿五日王子を始中官楽童子御内々可被為　召、此儀登
城ニ付習礼之心得御差図被遊度との御事候由、二階堂右八郎殿御取次を以聞役ニ被仰渡候付、則同人ゟ王子副
使以下中官楽童子ゟ何楚進上物被仰付度旨被相伺相済候由有之候。此段致通達候。以上。

十一月廿四日　　小禄親雲上

議衛正

同廿五日　晴天

一　今日八ツ時分王子副使讃議官以下中官楽童子、聞役案内ニゐ御内玄関ゟ罷上リ、御客間ニ暫扣居、追ゐ御座之
間ニ被召出、御茶御菓子被下、左候ゐ

太守様

若殿様　御出座

御目見被仰付、追ゐ

御隠居様ニ茂被遊　御出座、何れ茂御前近被

召寄、段々難有　御慈之被蒙

上意、登　城節御次第書等

太守様御手つから王子ニ被成下、御座之間絵図御引合御式向之儀御差図被成下、暮六ツ時分退去いたし候事。

附

一　御支度王子副使綸子、讃議官以下紗綾羽子、楽童子紬何れ茂大帯着用候也。

一　御菓子二包御送被下候也。

一　太守様江王子ゟ唐御菓子二包（白尊糕 里桃餅）目録無、聞役を以差上候。尤副使讃議官模合二ヵ氷砂糖拾六斤、中官楽童子模合二ヵ太白砂糖弐拾斤進上仕候也。

一　右付

太守様

若殿様江聞役を以二階堂右八郎殿御取次御礼被仰上、追ヵ夜入候故、

御隠居様御方江御礼、且御家老衆御用人衆江茂明日御同人を以御礼被申上筈候事。

同廿六日　晴天

琉球人登

城行列、来ル廿八日晦日之内天気次第当御屋敷内二ヵ

御覲被遊筈之条、当日四ツ時御内玄関前ゟ繰出、御式台前御広敷之方銅御門内通、御馬場南之御門北之方之御馬場龍通、御記禄（録）所後明地江夫々相扣居、差図之上可引取候。此旨早々向々江可申渡候。

但御家老両人之行列迄相除、其外者都ヵ登

城之通相心得、手廻等者正日之品為持候様との趣も可申渡候。

十一月　　央

琉球人行列

御覗ニ付王子副之儀不及被罷出、轎乗物迄相廻候様被仰付候条此旨琉球館聞役江申渡、可承向江為可申渡候。

十一月　　央

右之通被仰渡候間致通達候。以上

十一月廿六日　　旅蔵方

讃議官

右之通被仰渡候間致通達候。以上。

十一月廿六日　　小禄親雲上

議衛正（ママ）　路次楽人江為通達可被致候。

同廿七日　晴天

一　来月四日登

城ニ付、今日御殿江罷上リ、習礼有之候様被仰渡置候付、王子副使讃議官以下中官楽童子迄、四ツ時分聞役案内ニ而御内玄関ゟ罷上、御書院江

太守様

若殿様被遊　御出座、但馬殿央殿御用人御留主居衆公義御茶湯坊主を為御出張有之、最前御目見之次第御献上物之御礼自分献上物御礼之次第御習礼、座楽歌楽等仕、

太守様

若殿様ニ茂御一同御稽古被遊、済ゐ夜入五ツ時分退去いたし候事。

但

一　御支度王子緞子、副使綸子、讃議官以下中官紗綾羓子、楽童子紗綾、何れ茂大帯着用候也。

一　二汁三菜之御料理并御盛合御菓子、晩者御茶漬被下候也。

琉球人登

城行列明廿八日弥天気次第屋敷内ニゐ御覗被遊候条、此旨向々ニ可申渡候。

十一月廿七日　　央

右通被仰渡候間、致通達候。以上。

十一月廿七日　　旅蔵方

議衛正

同廿八日　晴天

一　今日琉球人登

城之行列、当御屋敷内ニゐ被遊

御覗候付、楽正以下末々迄九ツ時分罷出、兼ゐ御差図之馬場罷通、七ツ時分罷帰候事。

但

一　王子副使者不及被罷出轎乗物相廻、其外都ゐ登　城之通可相心得旨被仰渡置候付、行列道具類早晩之通供廻

迄差出候也。

一　中宮冠紗綾羃子、楽童子紬金花々簪差、以上騎馬、従者小姓白糸経着用、何れ茂大帯あい踏候也。

一　衣家其外為持道具類登

城之通持、人足等都ゐ蔵方構ニゐ候也。

一　讃議官当病ニ付出張無之候也。

同廿九日　晴天

同晦日　晴天

一　今日登　城之節、馬上之面々於御馬場ニ馬乗稽古被仰付候旨被仰渡置候付、讃議官以下楽童子迄八ツ後蔵役東郷太郎左衛門殿案内ニゐ御馬場ニ罷出、二階堂右八郎殿御馬預御側役衆御出張、稽古相済酉時分罷帰候事。

但常之装束いつれ茂大帯あい踏候。尤唐支度人数者くわんとう踏候也。

閏十一月朔日　雨天

一　今日唐暦表冬至ニ付、本殿御書院床上ニ向香盆ニ御香爐飾、王子ゟ御香被上之、御使者役々士之筑登之座敷迄朝拝有之候事。

但正使副使以下役々色衣冠、其外色衣いつれ茂大帯着用候也。

一

太守様御参府之御礼、今日被為済候付、御祝儀可申上旨被仰渡、七ツ後正使副使中官楽童子、聞役案内ニゐ御内玄関ゟ罷上り、

御三殿様

若殿様ニ御祝儀、於中之間謁御家老衆被申上退出いたし候事。

但正使副使綸子、中官羃子以上冠、楽童子紗綾着用候也。

同二日　晴天

一

太守様御位御昇進、且御米被遊御拝領候付、七ツ時分正使副使中官琉冠服、楽童子色衣大帯ニゐ聞役案内、御内玄喚ゟ罷上り、御取次番御案内、王子御書院上之間、副使同二之間、中官楽童子三之間着座、中之間謁御家老衆被申上候処、可被達

貴聞旨被仰渡、御一礼ニゐ退出いたし候事。

但御支度正使副使綸子、讃議官以下中官楽童子紗綾着用候也。

一　麗島ニ飛脚使有之、館内滞在之供中ニ書状差遣候事。

同三日　晴天

(一)明四日中山王使者并前中山王使者被　召連可被遊　御登　城、御本丸相済、西丸ニ茂可被召連、

若殿様ニ茂御同道可被為　在旨、御老中様御連名之御奉書御到来、且又差添之御家老御目見可被仰付候間、可

被召連旨被仰渡候。此旨琉球館聞役ニ申渡、可承向ニ茂可申渡候。

閏十一月三日

琉球人

御本丸退　城之節、正使副使者轎ハ乗物乗候儀、如例右外之琉球人下馬ゟ乗馬等いたし候ゐ者及混雑候付、右格を以下馬ゟ西丸迄之間銘々行列相立、歩行ニゐ可罷越候。被召付候御役々之儀者、乗物乗馬ニゐ可罷越候。

但下馬ゟ西丸迄之行列立等掛り御目附引受ニゐ、不致混雑様可取計候。

右之通可承向ニ可申渡候。

閏十一月　　央

右之通被仰渡候間、致通達候。以上。

閏十一月三日　　讃議官

議衛正

太守様

若殿様琉球人被　召連御登

城之節者、琉球人之儀者暁八ツ半時揃ニゐ、御跡より引続行列立之通御屋敷内ゟ乗輿乗馬等ニゐ繰立、表御門罷出候様被仰付候条、此旨琉球館聞役ニ申渡可承向ニ茂可申渡候。　　央

閏十一月

右之通被仰渡候間、右刻限本殿ニ可被相揃候。此段致通達候。以上。

壬十一月三日　　小禄親雲上

議衛正（ママ）　路次楽人にも可申渡候。

同四日　　雪天

一　今日就　御目見

太守様

若殿様琉球人被召列被遊

御登　城候付、明七ツ半時正使副使轎乗物、讃議官楽正議衛正（ママ）掌翰使以上唐支度、使賛楽師琉冠服、楽童子金花々簪差、何れ茂挑灯燈せ御屋敷騎馬にゐ面々名書之板札相立候場に立備、

太守様

若殿様御行列御跡御本門ゟ路次楽にゐ繰出、将監橋増上寺表門前芝口橋ゟ御堀端通、幸橋御門に入、桜田御屋敷前ゟ松平肥後守様松平大膳太夫様御屋敷脇通、日比谷御門八代洲河山後龍之口より、松平能登守様御屋敷脇通、大手御門ゟ登　城。

但

一　正使御宿御玄喚前にゐ、八ツ半時初之楽、七ツ時二度之楽三度之楽にゐ、御屋敷内ゟ繰出候也。

一　芝町辺ゟ夜明候付、挑灯消候也。

一　道筋公義御徒目付衆町中者与力足軽出、御大名方御屋敷前手桶を出、熨斗目着之士衆足軽相付警固有之、小路々虎落結、人留有之、又者棒突所々御徒目付頭衆下知方有之候也。

一　王子大手御門橋（詰）にゐ御下轎、副使少手前にゐ下乗、中官楽童子大手御門下馬涯にゐ下馬、惣琉球人御門通、

終迄御門橋詰[註]ニゐ左右ニ立並、路次楽有之。尤議衛正者御門橋詰[註]ニ扣居、王子被罷通候ゐゟ、楽正次中官之場ニ参候事。

但路次楽人其外御玄喚前不罷通、面々者大手御門南之方腰懸ハ被差置候也。

一 正使副使御玄関階之上被参掛候節、大目附御両人御出迎、御互ニ被揖、直ク御案内ニゐ殿上之間下段御着、讃議官以下役々同所次之間列居、唐支度。

一 御本丸西御丸御次第書之通御目見相済、乗輦乗物乗馬路次楽ニゐ最前道筋罷通、正使上御屋敷御門駒寄橋詰[註]ニゐ御下輦、副使以下御門駒寄手前ニゐ下乗下馬、正使表御玄関ゟ罷上り、副使以下御内玄関ゟ罷上り、御取次番両人御出迎御案内、正使表御取次之間上、副使讃議官御同所二之間屏風仕切上、楽正以下同所三之間着座、御次第書之通、

御三殿様

若殿様ハ御礼、於中之間謁御家老、被仰上候処、可被達貴聞旨被仰聞、御一礼ニゐ退出いたし候事。

但御目見并献上物御次第書、委細正使方御日記ニ相見得候付略ス。

一 王子御宿ニゐ王子副使讃議官ハ二汁五菜、中官楽童子ハ一汁三菜御料理、御吸物御肴御銚子御菓子等被下候。

一 従者以下士供ハ一汁二菜之御料理、御吸物御肴御銚子御菓子等被下候。路次楽人下供ハ一汁一菜之御賄被下候。

但桜田御屋敷ニゐ御料理被下被候筋被仰渡置候処、退城之時刻遅成候付、兼ゐ仰渡之趣有之、本文之通候也。

一　右ニ付御料理被下候御礼、聞役を以権五郎殿御取次被仰上候事。

一　御目見首尾能相済候付、副使以下役々聞役御用達御招有之、参上御祝儀申上御祝仕候事。

同五日　　雪天

同六日　　曇天

琉球人御暇ニ付、登

城之節ハ四日之通、暁八ツ半時相揃、御屋敷内ゟ乗輿乗馬ニ而行列繰立、

太守様

若殿様御跡ゟ表御門罷出、退　城之上御料理被下候儀共、諸事四日之通被仰付候。

一　上御屋敷ニ罷帰候節ハ、四日之通表御門外ニ而下乗下馬いたし、行列可繰入候。

一　御暇被下拝領物等被仰付候者、上御屋敷ニ帰掛、王子者表御玄喚副使以下者御内玄喚ゟ御殿ニ罷上、

御三殿様

若殿様ニ御礼謁御家老可被申上候。

一　右拝領物之儀者、御小書院備置、楽童子以上被召出、頂戴之儀共、先規之通被仰付候。

右之通琉球館聞役ニ申渡可承向ニハ可申渡候。

閏十一月六日　　但馬央

右之通被仰渡候間、致通達候。以上。

閏十一月六日　　小禄親雲上

議衛正

同七日　　雪天

一　今日音楽被　聞召、且御暇被下候付ゐ七ツ半時

太守様

若殿様御登　城、御跡ゟ王子以下装束去四日之通、本殿玄喚前ニゐ王子副使轎乗物騎馬之面々賦付之札本ニゐ乗馬、

御本門ゟ繰出、路次楽ニゐ去四日登

城之道筋通登　城、王子副使御玄喚階之上被参掛候時、御目附御両人御出迎、御互ニ被揖則御案内ニゐ

殿上之間下段御着座、讃議官以下唐支度人数同所次之間着座、琉冠服人数楽童子者権五郎殿御留主居衆御案内、

直ク柳之間罷通同所於勝手楽師楽器相調部、御車寄ニ使賛楽師ニゐ持越候。

一　大広間ニ

公方様

内府様出御、御上段御前之御簾被揚之候時、王子を始何れゟ平伏、御奏者番様御縁類ニ御誥、[註]楽正ニ御向音楽可奏

旨有之。此時楽人進候ゐ楽器ニ取付、則楽曲目録之通相済、楽師楽童子御車寄ニ退、楽師楽器持退、都ゐ御次

第書之通相済候事。

一　出御前、大目附衆御案内ニゐ王子并楽人共着座之席御見え被成候。此時役々ニゟ罷越御縁類ニゐ御座拝見仕候

事。

一　御家老衆御用人衆御留主居衆并賛議官以下使賛に者、御車寄に着座。

一　王子殿上之間下段にて御菓子御吸物御酒被下之、御老中様御出席御挨拶有之。

一　副使以下楽童子迄柳之間にて右同断被下之、右畢て御留主居衆ゟ被仰聞、中官楽童子退て御板縁立並候時、御両殿様御退去、次に大目附衆御両人御案内にて、正使副使御退出、御玄喚階之上にて御互に被揖、中官楽童子に茂続て相下り候。

一　退　城最前之所にて、乗轎乗物讃議官以下歩行にて西御丸に参上、正使橋誥（祐）にて御下轎、副使少手前にて下乗、夫ゟ正使副使西御丸御玄喚階之上被参掛候節、大目附衆御出迎、御互に被揖、則御案内にて殿上之間下段に御着座、讃議官以下同所次之間列居。

一　右旁相済、大目附衆ゟ御留主居に被仰聞、中官楽童子殿上之間御板縁に立並、御両殿様御跡ゟ王子以下相下り候次第御本丸同断。

一　退　城之節、最前之所にて轎乗物、中官楽童子御堀角にて騎馬、楽行列にて直に御殿に参上、御礼等之儀、都て去四日之通、左候て権五郎殿御出会、

公方様

内府様

大納言様ゟ拝領物頂戴仕候様承知仕、於御書院正使副使御頂戴之後、中官楽童子迄罷出頂戴之、退出仕候事。

但御拝領物并御次第書等、委細正使方日記に相見得候也。

一　公方様ゟ白銀三百枚

右従者惣中ハ

右拝領銀讃議官以下楽童子迄、江戸琉蔵役共ゟ左之通主従割を以相渡候事。

一　銀子六百弐拾九匁弐分六リ八毛弐シ主従四人分。

一　王子御宿ニゐ御料理被下候次第、去四日同断故、書留略ス。

一　王子副使ハ拝領物之内、左之通御裾分被下候事。

正使ゟ
一　美濃紙壱束
同
一　越前綿子壱把
副使ゟ
一　杉原紙壱束
同
一　綿子壱把

同八日　曇天

本文願之通御免被仰付候段、権五郎殿御取次被仰渡候。

一　明日上野参詣ニ付ゐ者乗馬之筈候処、当時寒気之砌風邪之支段々有之候間、中官楽童子罷帰候節、文株楼前ゟ加籠ニゐ罷帰候様奉願候間、御免被仰付被下度奉願候。此旨被仰上可被下儀奉願候。以上。

閏十一月八日　　閏役　川上直之進

同九日　晴天

一　今日上野　御宮御参詣ニ付

御両殿様御跡ゟ正使副使唐支度轎乗物、讃議官以下堂翰使迄唐支度、使賛楽師琉冠服緞子、楽童子金花々簪差緞子、

以上騎馬、路次楽ニゐ、朝六ツ半時分行列帳之通御本門繰出、兼ゐ被仰渡置候道筋罷通、惣御門外ニゐ楽止、御成道ゟ黒御門通文株楼ニゐ御下轎、副使同右檀下乗、何れゑ下馬、続ゐ差越馬上之面々随身門迄二行ニ相備、正使副使通詞一人付添随身門被参候時、大目附衆御出迎御案内ニゐ　御宮ハ御参上、献納物御使番方仕出ニゐ、兼ゐ被相備置候付、王子副使唐被奉九拝、済ゐ大目附衆随身門迄御案内御退去。

一　右相済正使副使最前之所ニゐ轎乗物、中官楽童子二行ニ歩行、直ニ御本坊ハ御参上、表御門外ニゐ御下轎、堀重御門唐御門通、御車寄ゟ御参殿、都ゐ御次第書之通相済、御帰之節最前之通。

一　右相済明王院ハ被罷出、正使副使讃議官御一座御茶御多葉粉盆出、後一汁三菜之御料理御菓子御馳走、楽正以下楽童子迄一座、讃度使以下士供迄一座、御茶御多葉粉盆出一汁二菜之御料理、路次楽人下供ハ者木屋掛ニゐ一汁一菜之御料理被下之、旁相済、正使副使轎乗物、中官楽童子歩行、御黒門ゟ正使乗物ニ被召替、中官楽童子ゑ加籠ニ乗替、夜入五ツ時分帰館いたし候事。

但御本坊ゟ明王院ハ御出之時、行列御本坊ニ御参上之時同断、明王院ゟ黒御門迄路次楽、夫より楽止、芝御屋敷迄兼ゐ之行列通相備候也。

同十日　晴天

一　上野宮様ゟ王子ハ拝領之内蜜柑御裾分被下候。早速御礼申上候事。

同十一日　晴天

同十二日　晴天

一　今日座楽歌楽御下タ見ニ付、王子副使以下中官琉冠服、楽童子金花々簪差、聞役案内ニゐ四ツ時御内玄喚ゟ罷上、御次第書之通楽相済、引次琉踊唐踊備御覧、御目見被仰付、御料理被下、拝領物等被仰付、旁相済御礼被申上、暮六ツ時分退去いたし候事。

但

一　御支度正使副使緞子、賛議官楽正楽童子綸子、議衛正以下、士供迄紗綾着用候也。

一　御次第書御膳部等正使方日記ニ相見得候也。

大守様より
一　錦絵一箱完。

一　文庫之内一完　品々入加。

若殿様より
一　絵半切絵一箱完。

一　文庫之内一完　右同。

右楽正以下役々ニ拝領被仰付候也。

同十三日　晴天

一　今日従

御台様

御簾中様、中山王前中山王ニ拝領物之御使御殿ニ御出ニ付、朝五ツ時分正使副使讃議官楽正議衛正掌翰使唐装束、使賛楽師琉冠服紗綾、楽童子金花々簪差緞子、聞役案内ニゐ御内玄喚ゟ罷上り、御次第書之通相済、八ツ時分

退出いたし候事。

一　中之御門外ニ両使（西之方正使以下中官楽童子東之方御家老始御役々頭々）罷出。

一　御使御立最前之通御送、御役々并琉球人ニ後東西ゟ入加へ罷出ル。

同十四日　雪天

同十五日　晴天

一

太守様御位階御昇進之御礼被為済候付、兼ゐ仰渡之通七ツ過時分正使副使中官琉冠服、楽童子色衣大帯ニゐ、聞役案内ニゐ御内玄関ゟ罷上り、御取次番衆御案内ニゐ正使御書院上之間、副使同二之間、中官楽童子同三之間ニ着座、

於中之間

御三殿様

若殿様ニ御祝儀謁御家老被申上候処、可被達

貴聞旨被仰聞、御一礼ニゐ退出仕候事。

但御支度正使副使綸子、中官楽童子者紗綾着用也。

一　従

三位様、王子ニ裃着一枚、手貫一ツ拝領被仰付、副使讃議官ニ後被風一枚手貫一ツ完拝領被仰付、中官楽童子士供

に者手貫一ツ完拝領被仰付、何れゟ頂戴仕候。右御礼之儀、王子御始士供迄為早々御使、小市郎殿ニ付ゐ被仰上候。御取持御手渡等委細正使方日記ニ相見得候事。

同十六日　晴天

一　昨日従

三位様王子副使以下に拝領物之御礼、蔵役山田弥太右衛門殿を以被仰上候事。

明十七日音楽踊於

御舞台被仰付候付、楽正楽師楽童子其外手代等いたし候程之琉球人而已、五ツ半時揃罷上候様被仰渡候間、此段致通達候。以上。

但装束先日楽踊御下夕見之通。

閏十一月十六日　　小禄親雲上

議衛正

同十七日　曇天

一　今日音楽踊於

御舞台被仰付候旨被仰渡、楽正楽師楽童子其外踊人数、五ツ半時聞役案内ニゐ罷上、御次第書之通相済、御料理被下、入相時分退出いたし候事。

但御次第書正使方日記ニ相見得候付略ス。

同十八日　雪天

同十九日　晴天

一　今日見物事ハ御庭拝見被仰付候付、王子副使以下中官琉冠服、楽童子金花々簪差、従者士供冠なし、いつれ茂五ツ時聞役案内ニゐ御馬場御中門より罷上、夫々之席ニ着座。

太守様

若殿様御出座

御目見被仰付、左候ゐ見物事引次従者士供迄御庭拝見、夫ゟ王子副使以下楽童子迄御茶屋ニ被召通　御目見被仰付、進上物ハ拝領物御料理等段々頂戴、都ゐ御次第書之通相済、夜五ツ時分退出いたし候事。

但御支度正使副使緞子、讃議官以下楽童子迄綸子、従者士供迄紗綾白糸経之間着用候。御次第書番組等正使方日記ニ相見得候付略ス。

一　右ニ付、

太守様

若殿様ニ中官楽童子ゟ進上物左之通。

進上（料紙に奉書折目七枚ニ真文字ニゐ相認候。仕様正使方日記ニ相見得候也。）

花毬瑠　二枚完

蘭花貢香　五箱完

以上

中官楽童子
相中

一　右二付従

太守様

若殿様拝領物左之通。

一　太守様ゟ　嶋織縮緬二端完

一　絵半切紙一箱完

一　若殿様ゟ　帯地一筋完

一　錦絵一箱完

右楽正ゟ楽童子迄弐拾人ニ

同廿日　雪天

一　今日従

御隠居様宗無殿御使を以、正使副使讃議官ニ品々拝領被仰付候。楽正以下楽童子迄、弐拾人ニ左之通拝領被仰付候。

正使御始役々ゟ聞役を以、御礼被仰上候事。

亀甲紋羽胴着一完

同廿一日　晴天

一　今日高輪御殿に被為召候付、王子副使琉冠服轎乗物、中官同冠服、楽童子金花々簪差、いつれも加籠にゐ明六ツ半時分西御門ゟ行列帳之通繰出、王子副使御玄喚前被参掛候時、御側御用人御出迎、王子御書院上之間、副使讃議官御同所次之間、中官楽童子御客間着座、御側御用人御出、王子副使讃議官に御挨拶有之、左候ゐ御出座前以奉伺御機嫌且当日之御礼被申上之、王子御休息所二之間一畳目にゐ御礼被申上候節、御側御用人ゟ奉伺御機嫌、今日者難有奉存候旨御取合、御意有之、御退座、副使讃議官同所二之間にゐ同断、中官楽童子同所末席に罷出、

御目見被仰付退去、左候ゐ御庭拝見被仰付、夫より御休息所於保寿楼ニ王子副使賛議官楽正に卓子被下之、議衛正以下に於清幽斉同断被下之、見習ニ差越候面々御物見二階末々者、同所下にゐ御料理等被下、音楽唐琉踊備

御覧、王子以下役々ゟ進上物差上、種々頂戴物正使副使役々に拝領物等被仰付、彼是御次第書之通相済夜之五ツ時分罷帰候事。

但王子副使以下中官楽童子緞子、従者小姓冠紗綾羊子之間、士供冠なし羊子大帯着用候也。

三位様に

一　蘭花貢香二箱

一　花毬毬二枚

右楽正以下役々ゟ進上物。

一　御包物一完品々入加

右議衛正以下従者士供中に拝領物。

同廿二日　晴天

一　今日白銀御殿に被為　召候付、王子以下役々明六ツ時御屋敷御出立、昨日之通進上物并　御料理種々頂戴、正使副使役々に拝領物等被仰付、都ゐ御次第書之通相済、夜五ツ時分罷帰候事。

但御支度高輪御殿同断。

一　王子副使賛議官に御吸物御酒御取肴、後二二汁七菜之御料理被下之、楽正以下楽童子に御吸物御酒御肴、後二汁五菜之御料理被下之候事。

但御膳番受持御側目付差引

御隠居様に

一　薗花貢香二箱

一　花毬毬二枚

右楽正以下役々ゟ進上物。

一　御包物一完品々入加

右議衛正以下役々に拝領物。

同廿三日　晴天

一　今日席書并　踊

御覧ニ付、王子副使綸子、賛議官以下楽童子迄紗綾、いつれゑ大帯着用、九ツ時分聞役案内ニゐ御内玄喚ゟ罷

上り、楽正以下楽童子に席書被仰付、引次踊備

御覧、御料理拝領物等被仰付、旁相済暮六ツ時分退去いたし候事。

一 太守様ゟ御包物一完品々入加

右楽正以下役々に拝領物。

同廿四日　雪天

(一)明廿五日琉球人高輪に罷上候付、朝六ツ時当御屋敷罷出候様被仰付候条、右刻限を以相揃、届申出候様向々に可申渡候。

壬十一月廿四日　央

右之通被仰渡候間、正七ツ時相揃其届拙者方に可被申出候。此段申達候。以上。

壬十一月廿四日　間役川上直之進

議衛正

同廿五日　晴天

一 今日高輪御殿に被為　召候付王子副使乗物、中官楽童子加籠、いつれ茂色衣大帯着二ゐ、朝六ツ時行列帳之通当御屋敷繰出、王子副使御玄関之間被参掛候時御取次番御出迎、王子上之御客間御着座、副使讃議官同所次之間、中官楽童子御客間二之間溜り之間ニ掛り着座、御側御用人に相付被奉伺御機嫌　御目見被仰付、御雛子、猿芝居、軽業、御庭拝見、見物事種々、頂戴物拝領物等被仰付、都ゐ御次第書之通相済、夜四ツ時分罷帰候事。

但

一　王子副使緞子、讃議官楽正綸子、議衛正以下役々さや、楽童子綸子、従者士供さや羓子之間着用候也。

一　於御鷹場、王子以下中官楽童子ハ松平美濃守様、虎之助様羽合拝見被仰付、御提飼之鴨、御馳走等有之候也。

一　正使副使讃議官楽正ハ於亀之甲御茶屋二汁七菜、中官楽童子迄二汁五菜之御料理被下之、左候ゟ於福寿亭御吸物御取肴御酒等被下之、従者以下末々迄茂酒肴御料理被下之候事。

一　三位様ゟ御包物一完品々入加

右楽正以下役々ハ拝領。

同廿六日　曇天

一　明廿七日琉球人白金

御殿ハ罷上り候付、朝正六ツ時当御屋敷罷出候様被仰付候条、刻限前以相揃届申出候様向々ハ可申渡候。

閏十一月廿六日　央

右之通被仰渡候間、此段致通達候。以上。

閏十一月廿六日　聞役

議衛正

同廿七日　朝曇天九ツ時分ゟ雪降ル

一　今日白金御殿に被為　召候付、王子副使乗物、中宮楽童子加籠御支度、一昨日高輪御殿御参上之通ニあ、朝六ツ時行列帳之通当御屋敷繰出、王子奥口板之間被参掛候時、御小納戸見習御出迎、御書院上之間御着座、副使讃議官同所二之間、中官以下鶴之間、同所二之間松之間懸ケ着座、御側御用人に相付奉伺御機嫌、且廿二日被為召候御礼被申上之、御広座に御出座、御目見被仰付、夫ゟ於御馬見所ニ大神楽見物被仰付、引次王子副使讃議官御広座ニあ御会釈、御菓子被下之、拝領物被仰付、其外夫々之席ニあ御会釈被下之、夫ゟ御庭拝見被仰付、又以御書院に

御出座、王子以下士供迄同所二之間ゟ三之間ニ掛ケ列座、手つま見物、種々頂戴物被仰付、其外都あ次第書之通相済、夜四ツ時分罷帰候事。

但

一　見物央讃議官以下士供迄御通被下、御盃提多葉粉入一完拝領被仰付候也。

一　御次第書番組正使方日記ニ相見得候付略ス。

同廿八日　晴天

一　今日正使副使以下中官楽童子迄

御殿に被為召候付、王子副使綸子、中官楽童子紗綾大帯着、聞役案内ニあ九ツ時御馬場御中門口ゟ罷上り、於御茶屋検校共に琴挽被仰付、王子以下夫々之席ニあ御会釈被下之、入相時分退出いたし候事。

但王子ゟ進上物有ル。番組御膳部等正使方日記ニ相見得候也。

同廿九日　曇天

参府之琉人共道中通行之儀者、従者共迄警固之者不差添通行者いたす間敷事候処、参府之節者、前後混雑罷通警固之者共制方ゟ届兼候趣相聞得、不都合之至候。依之此節被差返候付ゐ者、被召附候面々之随下知相図不行散様通行可致旨役頭共ゟ堅可申付旨、琉球館聞役ゟ申渡、物頭并中小姓ゟも可申渡候。

閏十一月　　但馬

右通被仰渡候間、被成御順達留ゟ御返可被給候。以上。

閏十一月　　聞役

議衛正

同廿日　曇天

十二月朔日　雪天

琉球人出立、来ル九日之筈被仰付置候得共、思召有之、来ル十三日出立被仰付候条、此旨琉球館聞役ゟ申渡、向々ゟも可申渡候。

十二月朔日　　但馬

右之通被仰渡候間、此段致通達候。以上。

十二月朔日　　聞役

議衛正

同二日　雪天

同三日　曇天

琉球人被差返候付、東海道美濃路日数十八日休泊。

江戸

川崎五里拾壱丁　三り拾壱丁　弐り半

神名川

程ケ谷三里半　壱り九丁

戸塚

平塚拾里弐丁　五り拾弐丁　四り半八丁

小田原

箱根八里　四り八丁　三り半拾丁

三嶋

原九里　三り　六里

蒲原

奥津七里弐丁　弐り半拾壱丁　四り九丁

府中

岡部七里半九丁　三り半　四り九丁

嶋田

日坂七里弐丁　弐り半拾壱丁　四り九丁

袋井

浜松八り半　五り半八丁　弐り半拾丁

舞坂

白次賀五里半八丁　弐り半八丁　三里

吉田

赤坂六里半拾壱丁　三り弐丁　三り半九丁

岡崎

池鯉鮒八里拾四丁　三り半拾弐丁　四り半弐丁

宮

清洲六里　三り半　三り半

萩原

黒俣八里　三り半　四り半

垂井

柏原七里六丁　三り半　三り半六丁

鳥居本

愛知川六里　三り半　弐り半

武佐

守山五里八丁　三り半八丁　弐り半

草津

大津七里半拾六丁　三り半拾弐丁　四り四丁

伏見

伏見中三日逗留

川下り一日　大坂中三日逗留

右之通被仰渡候条、此旨琉球館聞役ニ申渡可承向々ニ茂可申渡候。

十二月

同四日　雨天

同五日　晴天

同六日　晴天

但馬

同七日　雪天

同八日　晴天

一　今日従

三位様、正使御始中官楽童子従者士供御国許ニ相誥〔誥〕居候親雲上以上ニ、左之通拝領被仰付候付、銘々頂戴、御礼之儀聞役を以被仰上候事。

一　御寿盃一完

一　米之御守一完

一　公辺勤向相済候付、今日四ツ時御使番御使を以御国許迄御暇被成下候付、王子以下琉冠服ニゐ本殿ニ罷出、御意奉拝聞、御使者御帰り、後王子副使讃議官御殿ニ被罷上、謁御家老御礼被仰上候事。

同九日　雪天

同十日　晴天

一　来ル十三日御当地出立ニ付、御目見被仰付旨被仰渡置、今日四ツ時正使副使以下中官琉冠服楽童子金花花簪差、聞役案内ニゐ正使御玄喚、副使以下御内玄喚ゟ罷上、御目見、引次御返翰御渡方等御次第書之通相済退去、御家老衆御用人衆ニ王子副使讃議官御名札、其外役々者一紙名書ニゐ聞役を以御礼被申上候事。

但御支度、正使以下役々江戸着之通ニゐ候也。

正使副使ニハ御拝領有之候。目録、正使方日記ニ相見得候。

一 銀三拾枚　　琉球人 惣中

太守様より

一 同拾五枚完　　琉球人 惣中

三位様

御隠居様

若殿様より

右者

公辺勤向相済候付、進上物有之候間、右之通拝領被仰付候。

右可申渡候。

十二月　　央

同十一日　晴天

同十二日　晴天

同十三日　晴天

一 豊見城王子江戸表御勤方首尾能相済、今日如鶏鳴被差立候付、朝四ツ時分王子副使琉冠服轎乗物、中官同冠服、楽童子拝領之時服着、金花々簪差、以下御借馬ニ乗る騎馬、御屋敷内行列帳之通相備、三度之楽ニ乗る西御門ゟ繰

出、御本門前通、品川御本陣鶴岡市郎右衛門所小休、九ツ時六郷川船渡ニゐ八ツ時分川崎昼休、暮六ツ時分神名川止宿いたし候事。

但

一　御支度、王子副使讃議官楽正緞子、議衛正以下楽師綸子、楽童子時服、従者士供者紗綾着用、いつれゑあい踏候也。

一　江戸滞留者、中五十五日ニゐ候也。

一　今朝御屋敷各於居間、正使副使讃議官二汁五菜、中官楽童子二汁三菜、従者士供一汁三菜、末々に者一汁二菜之御料理被下候事。

一　御大名様方、御屋敷并町通張番警固、御登之時同断。

一　御泊宿御出入路次楽いたし候儀、参府之時同断ニゐ略ス。

同十四日　曇天

一　明六ツ時分、神名川出立、九ツ時分程ケ谷宿昼休、酉時分戸塚止宿いたし候事。

一　明日者十里余之道法之事候付、皆々其心得ニゐ、暁七ツ時分ニ者是非仕舞方相揃候様、無之候ゐハ不都合可相成候付、刻限無間違末々迄屹ら申渡可被置、此段申達候。以上。

十二月十四日　　川上直之進

議衛正

同十五日　晴天

一　明六ツ時分戸塚出立、影取宿小休、南郷宿小休、八ツ時分馬入川舟渡ニゐ平塚ゟ申所昼休、梅駅宿小休、酉時分小田原止宿いたし候事。

一　馬入川舟渡ニ付ゐ者、御役々出張有之候事。

同十六日　曇天昼時分ゟ間々小雨降ル

一　明七ツ時分小田原出立、湯元宿小休、箱根御関所前王子副使色衣御冠轎乗物、中官色衣大帯、楽童子金花々簪差、以上加籠、楽行列ニゐ八ツ時分箱根宿昼休、酉時分三嶋致止宿候事。

但中官以下者歩行之筈候処、雨天ニ付御免之上本文之通ニ候。尤行列備具等登之節同断。

一　箱根山中難所之上雨天首尾能差越候付、加籠かき六人ハ気付ゟ〆、弐朱銀壱切相与へ候事。

同十七日　晴天

一　明六ツ時分三嶋出立、駿州小野出羽守様御城下前楽行列ニゐ、沼津宿小休、九ツ時分原宿昼休、柏原吉原小休、富士川舟渡ニゐ岩淵宿小休、夜入時分蒲原致止宿候事。

同十八日　晴天

一　明六ツ時分蒲原出立、倉沢宿小休、九ツ過時分奥津宿昼休、江尻小吉田小休、暮六ツ時分府中致止宿候事。故具志頭王子御焼香仕候付、昨日書出候人数御目附始其外大和役々衆被付添清見寺門前ゟ歩行、玄喚前参掛候時、

役僧被出迎、直御霊前ニ進納（物）相備、右之僧御焼香被致候付、何れ茂唐四ツ拝仕、左候ゐ石塔ニ案内、右同断相済、広間ニ着、薄茶多葉粉盆出、後二汁三菜之料理御馳走有之候。右ニ付為御返礼竹心香二袋紗綾二巻正使ゟ被御遣候事。

但正使副使御不快ニ付、御参上無之候也。

一　官香三十六把

右御焼香人数十二人、進納物正使副使ゟも被御遣候品々、目録者正使方日記ニ相見得候也。

同十九日　晴天

一　明六ツ時分府中出立、弥勒町小休、阿部川乗物加籠台ニ載、歩行之面々肩車ニゐ相渡、丸子宿小休、九ツ時分岡部昼休、藤枝宿小休、酉時分嶋田一宿仕候事。

同廿日　晴天

一　今日五ツ頭時分嶋田出立、大井川乗物加籠台越、徒立之面々肩車ニゐ相渡、金谷宿小休、九ツ時分日坂昼休、掛川宿小休、暮六ツ時分袋井致止宿候事。

同廿一日　曇天

一　明六ツ時分袋井出立、見附宿小休、大(天)龍川舟渡ニゐ、八ツ時分井上武三郎様御城下楽行列、浜松宿昼休、篠原宿小休、七ツ時分舞坂致止宿候事。

同廿二日　晴天

一　今日六ツ半時分舞坂出立、今切川王子副使ハ伊豆守様御座船出、余者小舟数十艘ゟ罷渡、王子副使轎乗物、其外者歩行ニゐ荒井御関所前、楽行列ニゐ罷通、同所小休、八ツ時分白須賀宿昼休、二川宿小休、暮六ツ時分吉田致止宿候事。

同廿三日　晴天

一　朝六半時分吉田出立、伊名村宿小休、八ツ時分赤坂昼休、法蔵寺藤川小休、酉過時分岡崎致一宿候事。

同廿四日　曇天

一　朝六ツ時分岡崎出立、大浜宿小休、八ツ時分地〔池〕鯉鮒昼休、前後宿辰巳屋忠次所、鳴海宿小休ニゐ、入相時分宮一宿仕候事。

一　瑞泉寺ニ楽師故富山親雲上霊前并墓所参詣之儀、鳴海駅通懸ケ書出候人数、色衣冠ニゐ寺ニ参致焼香候事。

一　正使御始役々中ゟ香奠被御遣候事。

同廿五日　朝曇天昼時分ゟ晴天

一　朝六ツ時分宮出立、名古屋町楽行列ニゐ福満寺小休、四ツ時分清洲宿昼休、稲葉宿小休、酉時分萩原致止宿候事。

一　海国寺ニ故渡嘉敷親雲上霊前ハ墓所、色衣冠ニゐ書出之人数、致焼香候事。

同廿六日　曇天

一　今日六ツ半時分萩原出立、起駅小休、起川舟渡、さかい川舟橋懸渡有之、黒保川舟渡ニゐ黒保宿昼休、佐渡川舟渡、戸田采女正様御城下大垣之町、楽行列ニゐ岡田若兵衛所長松宿小休、七ツ過時分垂井止宿いたし候事。
但起川黒保川渡、王子副使者尾張様御座舟、佐渡川者采女守様川御座舟出、其外小舟ゟ渡ル。

同廿七日　曇天間々雪降

一　朝六ツ時分垂井立、あい川歩渡ニゐ関ヶ原宿小休、九ツ時分伯原昼休、醒ヶ井宿小休、摺針峠茶屋田中九右衛門所ニゐ正使副使但馬殿御用人衆御寄合、蔵方調ニゐ所之名物餅ハ吸物酒肴御馳走有之候。中官以下大和役々者、前之茶屋ニゐ同断有之候。酉時分鳥居本致止宿候事。

同廿八日　曇天

一　朝六ツ時分鳥居本出立、高宮宿小休、九ツ時分愛知川昼休、清水ケ鼻小休、七ツ半時分武佐致一宿候事。

同廿九日　晴天

一　朝六ツ半時分武作出立、鏡ゟ申所小休、四ツ時分守山昼休、七ツ過時分草津致一宿候事。

一　明日伏見着ニ付、従者ハ下供共之面々藤之森辺迄者乗掛ニゐ為不苦候得共、同所小休ゟ者本行列相立事候付、

右所ゟ致下馬、夫々付々之駕籠脇ニ相付不行散様可申渡旨、御用人衆ゟ致承知候ニ付、屹ゟ間違無之様相心得候様頭々ゟ可被申渡、尤行列ゟ先差越候儀一切不罷成旨是又致承知候間、此旨致通達候。以上。

十二月廿九日　　聞役

議衛正

一　明日伏見着有之候ニ付、墓参可被仰付候間、琉人参詣人数御用候間、書付を以届被申出候様只今御家老座ゟ致承知候間、此旨申達候。以上。

但面付書、正使方日記ニ相見得候也。

十二月廿九日　　川上直之進

議衛正

一　明日伏見着ニ付ゐ者、正七ツ時分無間違出立有之候様可申渡旨致承知候ニ付、右刻限前以相揃候様可被致、此旨致通達候。以上。

十二月廿九日　　聞役

議衛正

同卅日　　晴天

一　今日暁七ツ時分草津出立、隠岐守様御城下楽行列、又々大津入口ゟ楽行列、四ツ時分同所昼休、藤之森ニゐ御備相立御登之通楽行列ニゐ、七ツ過時分伏見御本陣大塚小右衛門所致止宿候事。

一　加籠かき六人当所迄首尾能相届候。祝ゟ〆二朱銀一切相与へ候事。

一　首尾能御着之為御祝儀、蔵方ゟ吸物酒肴二汁三菜之料理御馳走有之候事。

正月朔日　雪天

一　元旦ニ付本座床上ニ向、香盆ニ御香爐飾、王子より御香被上之、士供筑登之座敷迄朝拝仕候事。

但王子御始役々色衣冠、其外者色衣大帯着用、引次蔵方ゟ雑煮之御吸物御馳走有之候也。

一　今日滞留之事。

同二日　雪天

一　今日茂同断。

一　明後四日、弥川下り被仰付候付ゐ者乗船刻限之儀、明晩正八ツ時御座舟ニ乗付候様被仰付候。万一茂及遅刻候ゐ者、大坂着別ゐ不都合相成候付、此旨屹ゟ可申渡置旨笑左衛門殿被仰付由ニゐ、御用人ゟ訳(別)ゐ致承知趣有之候付、聊心得違無之様可被申渡候。此段御方迄御問合申達候。以上。

但乗船之節川御座ニはき物等踏上候儀、一切不相成事候間、此段も可被申渡候。先達ゐ川登之節者右様之儀も有之、別ゐ不都合之段相聞得候由ニゐ難有御馳走船之事候に付、此節之儀、万一茂右式之儀有之候ゐ者御外聞ニ茂相掛事候付、末々ニ至り屹ゟ取違無之様可被申渡候。尤書付明日此方ニ御返可被成候。以上。

正月二日　聞役

讃議官

右之通申来候間、取違無之様堅可被申付置候。此段致通達候。以上。

正月二日　　小禄親雲上

議衛正

一　今日八ツ時分、大黒寺に故儀間親雲上葛原親雲上霊前ハ墓所書出候人数色衣冠ニゐ、御目附衆其外大和役々被付添焼香仕、七ツ時分罷帰候事。

一　王子ゟ大官香三把、讃議官役々中ゟ官香十五把、相手向候事。

正月三日　　曇天

一　今日滞留之事。

同四日　　晴天

一　朝七ツ時分三度之楽ニゐ、王子副使琉冠服、伏見御本陣玄喚前ニゐ乗物、中官同冠服楽童子金花々簪さし、従者士供色衣大帯着用、弐行ニ相備、楽行列、京橋東之浜ニゐ王子副使川御座（船）に御乗付、いづれも賦之船に乗合、則船行列、路次楽船諷替々いたし、川下り、七ツ過時分順々大坂御屋敷前着、路次楽人道左右ニ立並、王子御通、跡ゟ惣琉人御屋敷に入、終迄楽いたし候事。

一　杉重四組

一　酒四樽

右従

太守様拝領被仰付候由ニゐ、京都御留主居ゟ聞役に御渡有之、王子被頂之余船之琉人共に茂一組一樽完被下候事。

一　王子御始末々迄昼休、赤飯〆物御物御取替を以被下候事。

一　首尾能御着之為御祝儀、正使副使役々に蔵方調ニゐ吸物酒肴、後二汁三菜之料理菓子御馳走有之、従者士供に茂酒肴一汁二菜之料理、末々に者一汁一菜之賄被下候事。

同五日　晴天

一　今日滞留之事

同六日　雪天

一　今日茂同断。

同七日　曇天間々小雨降ル

一　今日茂同断。

同八日　晴天

一　今日九ツ時分王子副使中官琉冠服、楽童子金花々簪差、従者士供色衣大帯、三度之楽ニゐ御屋敷繰出、王子副使川御座舟に御乗付、いつれ茂賦り之船に乗合、船行列ニゐ楽舟諷等替々いたし、川下りニゐ、七ツ時分川内なんば嶋前ニゐ、王子新田丸に御乗船、いつれ茂登之通各関船に乗移候事。

同九日　曇天

一　今日順風無之、滞船ニゐ候事。

同十日　雪天

一　今日義同断ニゐ候。

一　旧臘被差立候江戸ゟ飛脚今日着坂仕、御用済次第則出立仕筈御座候。此段申上候。向々にも被申渡度奉存候。

以上。

巳正月十日　　田中善左衛門

琉人立方御用人衆

別紙之通被仰渡候間、此旨申達候。以上。

正月十日　　嶋津権五郎

右通被仰渡候間、致通達候。以上。

正月十日　　川上直之進

四番船

同十一日　雪天

一　今日義同断。

同十二日　曇天

一　今日義同断。

一　明暁順風次第出帆之筈候間、惣船々左様相心得候様可被申渡候。左候ゟ諸所出帆之儀者登之節之通相図次第出帆可有之候。此旨御差図ニゟ候。以上。

正月十二日　　嶋津権五郎

関船々中乗中

右之通只今被仰渡候間、此旨致通達候。取残せ品等無之様御取しらへ可被成候。以上。

正月十二日　　聞役

四番船　琉大和役中

同十三日　雨天

一　今日義同断。

同十四日　曇天

一　今日義同断。

同十五日　晴天

一　今日義同断。

同十六日　曇天

一　今日茂同断。

同十七日　晴天

一　今日茂同断。

一　明十八日琉人湯入御免被仰付候。

公義ゟ出役茂有之候間、無間違屹ゟ可申達旨御用人衆ゟ致承知候付、此旨致通達候。尤明日五ツ時分ゟ公義出役有之候間、仕廻方之考を以仕舞方有之候様可被申達候。以上。

正月十七日　　川上直之進

議衛正　乗船琉役々大和役々

同十八日　朝曇天昼時分ゟ晴天風丑寅之間

一　今日順風相成、御家老御乗船ゟ出帆相図之貝鳴候付、五ツ時分大坂川口致出帆候処、八ツ時分ゟ向風相成、押船ニゐ、酉時分松平遠江守様御領摂津兵庫泊ゟ致着船候事。

一　読谷山王子従者宮城親雲上霊前墓所兵庫真光寺ゟ有之、申出之人数色衣冠ニゐ大和役々付添致焼香、後茶菓子御馳走有之候事。

一　正使御始、焼香人数ゟ香奠被御遣候事。

同十九日　晴天風同断

一　今日五ツ時分相図之貝鳴候付、いつれ茂兵庫泊碇を起、押船ニゐ致通船候処、向風故引戻、八ツ時分播州明石港ニ碇を卸候事。

一　鞆着船之上、故与世山親雲上墓所焼香有之候間、被参候方者只今此方ニ名面書付、可被相渡候。左候ゐ彼所着之上者、銘々中官香三把完蔵方ニ可被差出候。此段致通達候。以上。

但

一　讃議官以下之目録者、此方ニゐ相調させ可申候。

一　焼香之時装〔束〕速之儀役々者琉冠服、楽童子紗綾金花々簪差、其外士供者色衣大帯着用有之候様可相心得候。此段茂前廉致通達候。

正月十九日　　小禄親雲上

議衛正

同廿日　　曇天風戌亥之間

一　今日順風無之滞船之事。

同廿一日　　右同

一　今日茂同断。

同廿二日　晴天風未申之間

一　今日四ツ時分相図之貝鳴候付、いつれゟ明石出帆、五六里計押舟ニゟ致通船候処、八ツ半時分ゟ向風強ク、風波荒立候付、乗戻シ、入相時分又々明石港ニ致着船候事。

同廿三日　曇天風同断

一　順風無之滞船之事。

同廿四日　晴天風同断

一　今日ゟ同断。

同廿五日　晴天風同断

一　今日ゟ同断。

一　風之御願仕候由船頭申出候付、乗合之人数下供迄壱人ニ付三文完取合、船頭方ニ相渡候事。

同廿六日　曇天風同断

一　今日ゟ同断。

同廿七日　晴天風同断

一今日ハ同断。

同廿八日　晴天風卯辰之間

一今日五ツ頭時分相図之貝鳴候付、何れハ明石泊致出帆候処、九ツ時分ゟ向風強ク風波荒立候付、押舟ニヨ漸入相時分酒井雅楽頭様御領姫路之内室津泊ニ碇を卸候事。

同廿九日　曇天風卯之方

一日出時分貝鳴候付、いつれハ室津泊出帆間々押舟等ニヨ、酉過時分備前岡山領之内縄嶋泊ニ致着船候事。

二月朔日　晴天風戌亥之間

一今日五ツ頭時分貝鳴候付、いつれハ縄嶋出帆、向風強ク押舟ニヨ通船難成、九ツ時分岡山領之内日比ゟ申所ニ致着船候事。

同二日　晴天風子丑之間

一未明相図之貝鳴候付、日比出帆、間々押舟等ニヨ、夜入時分犬嶋之内大浜浦致着船候事。

一鞆着之上者、故与世山親雲上墓所致焼香候段者兼ヨ及御届候処、彼津通船之砌御家老御乗船過行候付、則御用達樺山殿を以手間ゟ御家老座書役衆ニ被相伺候処、追風吹続候付ヨ者一刻ハ早走行候様無之候ヨ不叶、勿論焼

香一件も格別なから私成儀ニ候得者、私を以公務相滞候筋ニ者難被仰付、無御拠御吟味有之、無是非通船被仰付候由、右ニ付ゐ者残多ゑ可有之候得共、着船場ゟ都合次第名代を以焼香為致候歟、又者館内着之上差遣候筋ニ成共程能取計、いつれ琉人共落着候様可申達旨承知仕候事。

同三日　晴天風同断

一　未明相図之貝鳴候付犬嶋碇を起、押舟ニゐ入相時分芸州広嶋領之内御手洗港ゟ碇を入候事。

同四日　曇天風午之方

一　今日順風無之滞船之事。

同五日　雨天風同断

一　今日ゑ同断。

同六日　晴天風未申之間

一　今日ゑ同断。

同七日　晴天風子丑之間

一　今日順風相成、相図之貝鳴候付、五ツ頭時分御手洗致出帆候処、風波強ク有之、九ツ半時分伊予之内松平隠岐

守様御領津和泊ニ碇を入候事。

一 昼時分ゟ曇天ニ相成、風波荒立候付、御家老御用人衆ゟ致陸宿候様被仰渡候付、正使御始いづれも酉時分寝具等取卸致陸宿候事。

同八日　雨天風同断九ツ時分ゟ晴天

一 今日九ツ時分雨晴、風波静ニ相成候付、御用達を以御家老衆ニ御届申上候ゐ、各乗船ニ乗付候事。

同九日　曇天風申酉之間

一 今日五ツ頭時分貝鳴候付、いつれゑ津和（泊）碇を起、向風故押舟ニゐ、七ツ半時分周防之内萩領松平大膳大夫様御領上之関ニ碇を入候事。

同十日　曇天風同断

一 早朝貝鳴候付、一同上之関出帆、向風故押舟ニゐ、酉時分長門領之内笠戸村深浦致着船候事。

同十一日　晴天風申酉之間

一 日出時分相図之貝鳴候付、いつれゑ深浦出帆、押舟ニゐ、七ツ時分四郎谷泊ニ致着船候事。

同十二日　晴天風寅卯之間

一　未明相図之貝鳴候付、何れも四郎谷泊碇を起、押舟ニゐ、夜五ツ時分豊前小倉小笠原大膳大夫様御領田之浦致着船候事。

同十三日　晴天風同断

一　未明相図之貝鳴候付、田之浦碇を起、押舟ニゐ、五ツ半時分薩摩泊ニゐ汐合見合、四ツ半時分又々同所出帆、七ツ時分豊前福岡松平備前守様御領相嶋致着船候事。

同十四日　雨天風同断

一　今日雨天ニゐ滞船之事。

同十五日　曇天風同断

一　今日五ツ時分貝鳴候付、いつれゑ相之嶋出帆、走船ニゐ七ツ半時分肥前唐津小笠原佐渡守様御領呼子泊ニ致着船候事。

一　明日ゟ先平戸御城下通船ニ付ゐ者漕船ニゐ候ハヽ、先規通船飾路次楽等可有之候。若又走船ニゐ候ハヽ不及其儀候間、此旨琉球人乗船ニ可被申渡候。此旨申達候。以上。

二月十五日　　嶋津権五郎

琉球館聞役

別紙之通致通達候。以上。

二月十五日　　聞役

一番船　二番船　三番船　四番船

琉役々　大和役々

同十六日　曇天風同断

一　順風宜有之候得共、雨催ニ相見得候付、滞船仕候事。

同十七日　雨天風同断

一　雨天ニ付滞船仕候事。

同十八日　晴天風同断

一　順風宜有之候得共、波立強ク有之候付同断。

一　向田ゟ陸地人馬賦方小割を以可申出候間、王子□□御方并琉役々路次楽人迄ゟ、馬荷何疋分、人足持幾人分ゟ銘々不洩様可被書出旨、各ゟ乗船之琉役々江可被申達候。左候ゟ書付取揃早々此方江可被差出候。於向田夫々人馬手形申受入付有之筋ニ可申出候。若又汰(駄)数夫数之賦方、琉人手前ニゟ不相調候も夫持荷何程馬荷何程之荷数を以被書出候ゟ宜候間、何分ニゟ早々取しらへ書付取揃、早々可被差出候。此書付早々被相廻、留ゟ可被相返候。以上。

二月十八日　　聞役　川上直之進

一番船　二番船　三番船　四番船

琉役々

同十九日　晴天風同断

一　今日後同断。

覚

一　駕籠壱丁

一　衣家壱荷

一　長柄壱本

一　雨具壱荷

一　路次楽器櫃弐ツ

右行列

一　長持壱竿　与那覇親雲上模合

右先荷

一　皮籠弐荷

一　万袋壱ツ

一　呉座袋壱ツ

一　跡付箱壱ツ

右明荷乗懸馬弐疋

右向田ゟ琉球館迄荷物如斯御座候。以上。

二月十九日　　議衛正役人　与座筑登之

覚

一　皮籠弐拾壱荷

一　万袋弐拾壱ツ

一　呉座袋弐拾壱ツ

一　跡付箱弐拾壱ツ

右路次楽人弐拾壱人、向田ゟ館内迄明荷物如斯御座候。以上。

二月十九日　　議衛正役人　与座筑登之

覚

一　長持壱竿

右先荷

一　皮籠弐荷

一　万袋壱ツ

一　呉座袋壱ツ

一　帳箱弐ツ

一　竹皮籠壱ツ

一　跡付箱壱ツ

右乗懸馬弐疋

右故儀間親雲上主従荷物、向田ゟ館内迄如斯御座候。以上。

巳二月十九日

議衛正役人
与座筑登之

一

三位様御逝去付、普請殺生鳴物日数三十日停止之段申来候。依之船々之儀ゟ今日ゟ同令停止候。

一

太守様御忌三十日御服百五拾日被遊御受候付、御家中之面々、月代之儀者日数十五日致間敷候。鬚者五日過キすり可申旨申来候間、是又今日ゟ同断、月代等いたす間敷候。

一　御法号

大信院殿菊翁如証大居士ゟ奉称候間、可奉承知候。右之通船々ゟ不洩様申渡、王子初琉球人ニも承知候様聞役ゟ可申渡候。

但川上十郎左衛門ニ者長崎御使者相勤候付、其節者月代等可致候。

二月十九日

但馬

一

三位様御病気御養生、不被為叶、被遊御逝去候段者別紙申渡通候。左候ゑ、去ル十日江戸御発棺ニゑ、東海道美濃路日数十五日、夫より山崎通御道行ニゑ中国路十七日、九州路十三日被為在御通行、御滞無之候得者、来月廿四日鹿嶋御着棺之御同様ニ候旨御到来候条、此旨船々ゟ不洩様申渡、王子其

外琉球人共ニ茂可申渡旨、聞役ニ可申渡候。

二月十九日　　但馬

一

三位様御事此程ゟ御病気之処御養生不被為叶、去ル三日卯刻被遊御逝去候段御到来候。此旨王子初琉球人ニ茂承知候様聞役ニ申渡、左候ゟ謁之格を以今日

御両殿様

若殿様奉伺御機嫌候筋被仰付候条、是又可申渡候。

二月十九日　　但馬

一

三位様御事此程ゟ御病気之処御養生不被為叶、去ル三日卯刻被遊御逝去候段御到来候。依之月次御礼罷出候面々、席々謁之格を以今日

御両殿様

若殿様奉伺御機嫌諸士者□々相付候格を以同断、奉伺御機嫌候筋ニ被仰付候。

但大奥ハ京都ニ茂兼ゟ伺御機嫌申上来之面々今日江戸ニ飛脚差立候付、右使奉伺御機嫌候。

右之通船々ニ不洩様可致通達候。

二月十九日　　但馬

別紙四通之通被仰渡候間、各御承知可被成候。以上。

二月十九日　　聞役　川上直之進

一番船　二番船　三番船　四番船

大和役々　琉役々

同廿日　朝雨天四ツ半時分ゟ晴天風同断

一今日茂滞船之事。

同廿一日　晴天風戌亥之間

一今日茂同断。

同廿二日　晴天風同断

一今日茂同断。

同廿三日　晴天風同断

一早朝相図之貝鳴候付いつれ茂呼子出帆、向風強、押舟難成、九ツ時分唐津領小川内ゟ申所ゟ致着船候事。

同廿四日　雨天風同断

一雨天ニゟ滞船之事。

同廿五日　曇天風子丑之間

一　順風宜有之候得共、波立強ク有之由ニゐ滞船之事。

同廿六日　朝曇天九ツ時分ゟ晴天風同断

一　今日順風相成候付、五ツ半時分貝鳴候付小川内出帆、走船ニゐ、酉時分平戸領田助泊ゟ碇を入候事。

同廿七日　朝曇天八ツ半時分ゟ晴天風申之間

一　今日順風無之滞船之事。

同廿八日　晴天風申酉之間

一　今日四ツ時分相図之貝鳴候付、何れゟ田助泊碇を起、向風故押舟ニゐ、夜入四ツ時分肥前大村領面高泊ゟ致着船候事。

但平戸御城下通船之砌、路次楽之儀者
三位様御逝去ニ付無之、船飾ニゐ相済候也。

同廿九日　朝曇天四ツ半時分ゟ雨降ル風寅卯之間

一　早朝相図之貝鳴候付、いつれゟ面高出帆、間々押舟ニゐ九ツ時分同領松嶋泊ゟ致着船候事。

同晦日　晴天風子丑之間

一　今日五ツ頭時分相図之貝鳴候付、一同松嶋出帆、走船ニゐ、夜四ツ時分天草之内黒嶋ニ致着船候事。

巳
三月朔日　朝曇天九ツ半時分ゟ小雨降ル風子□（丑）之間

一　日出時分貝鳴候付、黒嶋出帆、押船ニゐ暫牛深ニ汐懸、汐時見合四ツ半時分同所出帆、七ツ時分久見崎御船手前致着船候事。

（一）江戸立琉球人近々下着之賦候処、当分御慎中ニ候間、中途路次楽之儀者、差留候。此旨琉球館聞役ニ申渡、御勝手方ニも可相達候。

巳
三月　治部

右通被仰渡候間、致通達候。以上。

巳
三月　聞役　川上直之進

議衛正

同二日　雨天

一　川上りニ付七ツ半時分小早船ゟ登之節之通、船行列ニゐ川上り、暮六ツ時分向田着、王子波戸場ゟ御乗物御行列ニゐ白和町町家ニ被成御止宿、何れゟ歩行ニゐ同所町家ニ賦付之通致一宿候事。

但正使副使綸子、讃議官以下楽師迄紗綾羃子、楽童子紬、従者供色衣着用候也。

同三日　晴天

明後五日伊集院早朝出立、昼時比鹿児島着候様ニゟ之儀者、被仰渡置候通候間、右刻限無間違様末々迄屹ゟ可申渡候。尤横井ニゐ着替、正使副使讃議官楽正緞子、議衛正以下楽師迄綸子、以上冠、楽童子拝領之時服□金花々簪差候先例ニゐ候間、此段致通達候。以上。

三月三日　小禄親雲上

議衛正

同四日　晴天

一　早朝白和町出立、町迦迄行列ニゐ、八ツ時分市来湊昼休、苗代川小休ニゐ、七ツ半時分伊集院致止宿候事。

一　館内書役木村孫次郎殿、在番与力漢那親雲上被差越、御着之御祝儀被申上候。尤士下御供ニ者伊集院村迦迄御迎罷越候事。

同五日　朝雨天九ツ時分ゟ晴上り

一　朝六ツ時伊集院出立、横井会所小休、此所ニゐいつれゑ御着替、四ツ半時分打立、水上町家ニ暫御扣、行列相立、西田町ゟ兼ゐ仰渡之道筋罷通、九ツ半時分直御登城、御次第書之通相済、八ツ過時分館内致着候事。

但

一　王子副使讃議官楽正緞子、議衛正以下楽師迄綸子、楽童子拝領之時服着、金花々簪差候也。

一　水上ゟ正使乗轎、副使讃議官楽正ニゑ依願乗物、議衛正以下者騎馬ニゐ候也。

一　寄聞役蔵役琉蔵役外間親雲上、与力長浜親雲上、其外士御供横井御迎ニ被差越候。在番其外役々、新橋被出迎候也。

一　御着之為御祝儀、王子副使讃議官楽正聞役御用達、本殿於御書院蔵方調ニゐ御茶菓子出、引次御盃御肴立御吸物出、在番寄聞役亭主前を以御取替、二汁二菜之御料理御馳走、議衛正以下楽童子従者迄二献二汁一菜之御料理、士御供以下者一汁一菜之御賄被下候先例候得共、当分御慎中ニゐ兼ゐ被相伺候上、正使副使以下従者迄御茶菓子御馳走有之候事。

一　右相済正使御始いつれも水雲庵御参詣被成候事。

但御参銭三文完ニゐ、直ニ三役并在番其外琉役々御見廻罷通候也。

同六日　晴天

一　今日ゟ本殿ゟ出勤仕候事。

一　同七日ゟ先十二日迄者、勤方無之日記付不致候事。

同十三日

一　今日御返翰御拝領物御給之。

上使御出ニ付諸手当向、役所并蔵方構ニゐ相調候事。

一　上使御取持之次第、正使方日記ニ相見得候事。

一　百田紙一束完

右従

御三殿様

若殿様、楽正以下楽童子迄拝領被仰付候事。

一　右相済九ツ時分王子副使讃議官以下役々、聞役案内ニゐ登　城、王子杉之間、副使以下虎之間着座、御茶御煙草盆出、琉球方御家老杉之間、御取次御用人虎之間御出御挨拶、左候ゐ御奏者番衆ゟ御礼式御指南有之、王子於敷舞台御一礼、御家老衆ゟ御暇被下、拝領物被仰付候段被仰渡退去、引次副使讃議官一所御列出、右同断被仰渡、御目録御渡頂戴ニゐ退去、楽正以下楽童子迄御奏者番衆ゟ於虎之間拝領物被仰付候由被仰渡候付御一礼。

一　登　城之時王子乗物、副使讃議官依願加籠、楽正以下歩行ニゐ候事。

但王子緞子、副使讃議官楽正綸子、議(儀)衛正以下役々以上琉冠服紗綾、楽童子綸子金花々簪差候也。

一　退　城御支度替ニゐ何れゑ被召列、御三役并御取次御用人衆ゐ御礼被申上候事。

但賛議官以下惣中面立書御口上書ニ包加ニゐ候也。

三月十四日

一　今日乗船ニ付御家老御用人衆廻勤并去秋出立前御願相立置候付、水雲庵ゐ御結願等相済、聞役在番和琉役々御暇乞迄罷通、楽正御始乗合之役々召列乗船、円通丸ゐ乗付候。持参之焼酎錫船頭より御祭り相済、いつれゑ四ツ御拝仕候。引次吸物酒肴船頭馳走有之、相祝旁相済、入相時分罷帰り候。翌日同人ゐ渋扇子一箱練蕉布一端塩ぶた四斤差遣候事。

附船玉ゐ焼酎錫一双完乗合役々ゟ差上候也。

同十五日

同十六日

同十七日

同十八日　晴天風子丑之間

三月十九日　曇天風辰巳之間

一今夜七ツ頭時分前之浜致出帆、翌日酉頭時分山川入津仕候事。

附仲兵衛門宅ニ陸宿いたし候也。

同廿日　晴天風戌亥之間

同廿一日　曇天風同断

一今日御開門嶽参詣ニ付、いつれ茂召列、早朝出立御立願相済、暮時分罷帰り候事。

附御供物之儀惣人数ニゟ、御参銭弐百文白米壱升三合差上候。いつれも弁当昼休致持参候也。

同廿二日　晴天風辰巳之間

同廿三日　晴天風午未之間

同廿四日　晴天風午未之間

同廿五日　晴天風申酉之間

一今日順風相成、酉時分正使御乗船、一同山川津出帆仕候事。

同廿六日　晴天風戌亥之間

一今日早朝竹嶋硫磺嶋左ニ相見得、追々口之永良部屋久嶋見続、入相時分硫磺嶋永良部嶋瀬戸ゟ通船、且口之嶋も拾里程先ニ相見得候処、夜七ツ頭時分同嶋近左之方ゟ通船仕候事。

同廿七日　晴天風子之方

一今日未明仲之嶋諏訪瀬嶋悪石嶋見続、追々右嶋之左之方ゟ通船、且七ツ過時分喜界嶋大嶋見掛、夜五ツ時分右両嶋瀬戸ゟ通船仕候事。

同廿八日　晴天風卯辰之間

一今日四ツ時分大嶋西間切之内伊古茂港汐懸仕候事。
附正使御乗船之儀者、夜四ツ時分同港汐懸候也。

同廿九日　晴天風午之方

一今日伊舎堂親雲上始乗合人数上陸いたし、方々見物、次ニ与人之宿ニ参り候処、茶々請酒肴馳走等有之、謝礼ゟ〳〵品々差遣候事。

四月朔日　曇天風同断間々小雨降ル

一今日滞船之事。

同二日　雨天風未之方

一今日茂王子様御始いつれも御同伴ニゐ上陸いたし、方々御見物又以与人之所ゟ御出被成候付、酒肴御馳走有之、右謝礼として御菓子品物被御遣候事。

同三日　晴天風丑寅之間

一今日九ツ頭時分王子御乗船、一同伊古茂港出帆、徳之嶋左之方ゟ通船、七ツ時分永良部嶋見懸、夜七ツ時分同嶋左之方ゟ通船仕候事。

同四日　晴天風寅卯之間七ツ時分ゟ者雨天

一今日未明与論嶋伊平屋嶋国頭崎相見得、未申之方ニ通船仕候処、七ツ頭時分ゟ雨天之摸様相見得候付、伊平屋嶋白かね泊ニ汐懸仕候事。

同五日　晴天風寅卯之間

一滞船之事。

同六日　雨天風午未之間

一右同断。

同七日　雨天風同断

一右同断。

同八日　曇天風亥之方

一今日五ツ過時分白かね泊出帆、七ツ時分那覇川入津仕候。暫沖之寺ニ相扣、伊舎堂親雲上始乗合之役々召列御仮屋御方御届申上、定式并唐物方砂糖懸方御役々衆ニも御見舞申上、夜入時分首里ニ罷登、於観音堂御拝仕、迎之規式等相済、楽正御始いつれも御一同登

城、御書院ニ参上、当御取次奉伺御機嫌、追ゐ奥御書院ニ
出御、伊舎堂親雲上御出仕ニゐ着座、私以下者三人完御出仕ニゐ退去、伊舎堂私ニ者御近習御八帖敷ニゐ御茶
御菓子御料理被下之、楽童子御従者者於御書院御菓子御茶被下之、旁済ゐ御近習御取次御拝申上退　城、直ク
三司官衆御届申上、何れ為罷帰り候事。

言上写

一　今月廿三日諸御使者被持下候御返翰、御拝領物、被成御頂戴候事。

以上

四月十九日

右之通相済候間、同日六ツ時前朝衣冠ニゐ豊見城御殿ニ可被罷出候。以上。

但

議衛正楽師楽童子二者、四ツ時前直□(ク)南風之御殿ニ出勤可被致候。

一　表向進上物同日差上候間、御目録等兼ゐ御評定所ニ可被差出候。

四月十九日　　宮里親雲上

譜久山里之子親雲上

四月廿三日

一　今日御返翰御披ニ付、五ツ時分朝衣冠ニゐ登
城、御番所ニ相扣。

一　今朝副使始役々朝衣冠ニゐ那覇ゟ罷下り、四ツ時分登　城、御書院御次第書之通御返翰御目録先例之通
上覧相済、左候ゐ、江戸御三家御三卿御老中、其外御役々様ゟ之御目録并御進覧物一紙書を以、副使ゟ御書院
奉行御取次、奉備
上覧候事。
一　右旁相済、
上々様方ゟ表向土産進上物御近習御取次進上。